

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立今市小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 全国学力・学習状況調査については、国語、算数ともに県・全国平均を上回った。
- 市学力・学習状況調査については、4・5年生とも国語、算数ともに市・全国平均を上回った。
- 6年生の国語において解答時間が足りなかったと感じている児童が多かった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話すこと・聞くことにおいて、必要な情報を聞き取ること。 ○言葉(主語・述語やローマ字)、漢字の知識・技能。 ●説明文の叙述を基に内容を読み取ること。 ●段落構成の理解。 ●複数の条件のある文章を書くこと。	・説明文の学習をする際、文章構成(序論・本論・結論)等を分けたり、そのような構成の文章を書く経験を積ませる。 ・普段から条件を付けて文章を書く機会を設ける。(国語科に限らず、他教科でも振り返り等で意図的に取り入れる。モジュールの活用。)
	5年	○漢字を読むこと。 ○ことわざや語句の意味理解。 ●漢字を書くこと。 ●文章を書く問題は無回答が多い。	・習った漢字を普段から使うように指導する。 ・視写・条件作文(日記)の指導をする。 ・物語文や説明文の学習の中で要約をする活動を行う。
	6年	○中間から上位層の児童が多い。 ●文章構成の理解。	・物語文、説明文において文章の構成に目を向けた指導をする。
算数	4年	○全体的に市や全国を上回っている。 ●1万より大きい数の位取り。 ●□が何を表しているかの読み取り。 ●記述の書き方が分からずできていない児童が多い。	・生活と結び付けながら位取りを繰り返し指導する。 ・図と照らし合わせながら、文脈から数量の関係を立式する機会を増やす。 ・日頃から説明をする際に、書くことと話すことを合わせて取り組む。書き方や話し方の型を示す。
	5年	○全領域において、ほとんどの児童が理解できている。 ●机の面積を選択する問題のような演繹的な思考に基づいて思考すること。 ●理由や考えを説明すること。	・自分の考えを式や言葉、図を使って表現する機会を増やす。 ・基礎基本の定着を図る。 ・操作活動を伴う学習展開を行う。
	6年	○基本的な計算力。 ●考えの過程を書くこと。 ●式と問われていることをつなげる力。 ●表の読み取り。	・自分の考えを式や言葉、図を使って表現する機会を増やす。 ・式の意味を言葉で説明する場を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●自分で考え、自分で取り組む児童が少ない。(6年生 約30%) ●自分の考えを説明する力が不十分。	・自分の考えを式や言葉、図を使って表現する機会を増やす。 ・文章を要約してまとめる活動を行う。 ・操作を通じた学習内容の理解を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●家庭学習の取組時間が少ない。(6年生1時間未満 約40%) ●家庭学習の取組方や意識には個人差が大きい。	・自主学習の取組を充実するとともに、好事例を紹介するなど意欲の向上と質の向上を図る。 ・学校の基本的な考えとして家庭学習の手引きを年度当初、年度途中に配付し、家庭での意識づけを図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家庭内で勉強に関する会話をする児童が多い。(6年生ほぼ毎日 約55%) ○地域への愛着が高い児童が多い。	・便りやブログ等で情報を発信する。 ・コミセンなどと連携し地域の実態や課題に目を向けた学習を展開する。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生の国語の平均正答率は、出雲市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率を大きく下回った。
○4年生の算数の平均正答率は、出雲市・全国の平均正答率と同程度だった。
- 5年生の国語の平均正答率は、出雲市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率をやや下回った。
●5年生の算数の平均正答率は、出雲市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率を下回った。
- 6年生の国語、算数の平均正答率は、島根県平均を上回り、全国平均と同程度だった。
○6年生の正答数ごとの層分布は、国語・算数とも県の結果と比べて下位層の割合が少なかった。全国の結果と同程度だが、上位層はやや少なかった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語文の読み取りが全国の平均正答率をやや上回った。図書館教育の充実により、意欲的に物語文に触れる機会が多いことが効果的であった。 ●ローマ字の読みの正答率が低く、特に半濁音の表し方を理解していない誤答が多かった。 ●条件付き作文の正答率が低く、全国平均を大きく下回った。	□毎月の書き取り会に向けての学習を継続的に続け、漢字の習熟を目指す。ローマ字についても漢字と同様に繰り返し練習し、習熟を図る。 □教科横断的に、感想などに簡単な条件を加えることも効果的であると考えられる。条件付き作文の初歩的な活動として身近なテーマで考えたいものを取り入れる。
	5年	○漢字の読み書きは、全国平均正答率を大きく上回った。1か月に1回程度、書き取り会を行うことで、漢字を書く力が身についた。 ●文章を書く問題が、全国平均正答率から大きく下回った。無回答率が市平均より高かった。	□書くことの条件を意識して、日頃から書く経験を増やす。朝活動などのショートタイムで、構成に気をつけて書く指導を行う。書き方の例やパターンを示す等して、苦手な児童も取り組みやすくする。 □読むことの学習の強化。活字を追う力をつける。音読、視写、暗唱の力をつける。読書量を増やす。
	6年	○漢字の読み書きは、全国平均正答率を上回った。 ●表現の工夫の読み取りについての問題《問題番号1二(3)》の正答率が、全国平均、県平均ともに下回った。問題文で問われていることを正しく理解できていない回答が多かった。 ●自分の考えをまとめて書く問題で、無回答率が全国より高かった。	□問われていることを理解し、資料に照らし合わせながら正しい解答を選択できるよう朝学習等で繰り返し習熟を図る。 □情報を最後まで聞いたり、読んだりして必要なことがらを整理し、文章の構成を考える機会を増やすことで、文章に表す力を身につけさせる。
算数	4年	○目標値と比較すると、基礎・基本的な計算問題の正答率は同程度であった。 ○「図形」、「データ活用」領域では、全国正答率を上回った。 ●2桁×2桁のかけ算、問題文章から正しい式を選択する問題は、目標値を大きく下回った。式の選択では、正答の除法ではなく乗法を選択する誤答が多かった。	□目標値を大きく下回る領域や単元については、朝のモジュール等を活用したり、タブレットドリル等の情報ツールを活用したり、計算会の内容を工夫したりして、繰り返し練習をしていく。 □記述問題などの活用問題にも対応できるように、ペアやグループ、自分なりのノートまとめなどで、問題に対する考え方や解法を説明し合う時間を設け、全員が学んだことをアウトプットできる時間を確保する。
	5年	○わり算・計算のきまり、小数のたし算の問題は目標値を上回った。 ●小数のかけ算・わり算の問題は全国正答率を下回った。 ●記述問題の無解答率が市平均より高かった。	□小数の計算は、小数点を打つ場所の確認、見当をつけて確かめる習慣を身につけるよう繰り返し指導を行う。また、小数を整数に置き換えて文章を理解するよう指導を行う。 □グラフ・表と文章のつながりを理解するために、文章のキーワードを囲み、表・グラフにも同様に書き込む習慣を各教科で指導する。 □自分の考えを伝える場を意図的に設定する。
	6年	○図形領域の問題の正答率が、全国平均を上回った。 ●変化と関係の領域、思考・判断・表現力を問われる問題の正答率が、全国平均と比べて下回るものが多かった。	□算数的活動を積極的に取り入れ感性を育むとともに、他の児童の考え方を言語化することで思考力・表現力を高めていく。 □学力調査の類似問題に触れる機会を設け、思考力・表現力を身につけさせる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○休憩時間の学校図書館の利用頻度が高い。 ○算数の記述問題では、最後まで書こうと努力した児童が多い。 ○先生や友達の話をしっかり聞いている児童が多い。 ●英語の学習に対する意識が低い。「得意」や「好き」の割合が低い。 ●分からないところがあっても、質問する人が少ない。 ●辞書や参考書、問題集などを使って勉強している人が全国平均より少ない。	□英語はまず課題把握から実施して、英語の授業改善に取り組む。 □授業中に、理解度を確認したり、質問したりできる時間を作る。 □辞書を活用する時間を増やしたり、辞書を用いた学習に取り組ませたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとしている人が多い。 ○計画を立てて集中して勉強している人が多い。 ●予習をしている人が少ない。 ●家庭学習時間が短い(1日に2時間以上、学習する割合が低い)。 ●本や新聞の記事を読んでいる人が全国平均より少ない。	□保護者と連携して宿題以外の家庭学習の推進をしつつ、学校で習ったことを家庭でも使いたくなったり調べてみたくなったりするような授業展開や声掛けをしていく。 □学校で新聞記事を活用する時間を増やす。 □家読を推進する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校や家の人と決めた約束やきまりを守っている人が多い。 ●地域の行事に参加する児童が少ない。	□学校全体での「地域貢献」の意識づけを行う。地域行事の紹介をする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 第4学年は、国語は市平均正答率を大きく上回り、算数は市の平均正答率と同程度である。
- 第6学年は、国語は県の平均正答率を上回り、算数は全国平均正答率と同程度である。
- 基本的な四則計算や数の概念を問う問題では、市と同程度の平均正答率である。
- 文脈に沿った漢字を適切に書いたり資料の内容を引用したりしながら書くことについては、改善が必要である。
- 第5学年は、国語は市の平均正答率を下回っており、算数も市の平均正答率をやや下回っている。
- 図形の概念や長さの単位などを適切にとらえられるように、体験的な活動を取り入れながら学習する必要がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○主語と述語の関係性についての問題では、目標値を大きく上回っている。 ○物語文の叙述をもとに人物の心情をとらえることと、読み取ったことを伝える設問では、目標値を大きく上回っている。 ●相手や目的を意識して伝えたいことを明確にして文章を書く問題では、目標値を大きく下回った。	□短作文を書く学習を継続してできるように設定し、相手や目的を意識して自分の考えを書く力を高める。 □叙述をもとにした対話的な学びを継続し、互いの考えを共有する経験を重ねることで、伝えたいことを明確にする力の向上を図る。
	5年	○話し合いにおける司会の役割や、挙がった意見の共通点に着目して考えをまとめる問題については、目標値を大きく上回っている。 ●説明文の中心となる語を見つけて要約する問題では、目標値を大きく下回った。 ●相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、根拠となる事柄を引用して文章を書く問題では目標値を大きく下回った。	□読解力を高めるために、読書活動などのまとまった量の文章を読む活動を継続的に取り入れる。 □読書活動においては、心に残った一文を引用した上で自分の考えを書くことを行い、根拠をもって考えを書く力の育成を図る。 □さまざまな教科・領域の学習において、資料や情報を根拠に自分の考えを書く活動を取り入れる。
	6年	○資料の内容を読み取って自分の考えを持ち書く問題では、全国の正答率を上回った。 ●自分の考えの根拠となるように必要な事柄を引用したり、事例を選んで取り上げたりする問題では、全国の正答率を下回った。	□思考ツールなどを活用し、事実と意見を区別しながら整理し、自分の考えを構築する学習を重ねる。 □引用のルールを復習し調べ学習などでそのルールに合わせて書くこと・ルールに沿っているか推敲することを重ね、引用の力の定着を図る。 □条件作文を書く学習を定期的に取り入れ、さまざまな条件に合わせて書く力の育成を図る。
算数	4年	○「数と計算」領域の問題では、ほとんどの問題で目標値と同程度、もしくは大きく上回った。 ○円の半径を求める問題、二等辺三角形を作図する問題では、目標値を大きく上回った。 ●必要な値を用いて根拠をもって説明する問題では、目標値を大きく下回った。	□言葉や式、図など、様々な方法で求め方を説明する活動を多く取り入れ、学習内容への理解を深める。 □既習の用語について見返すことができるように、環境を整備する。 □図形に関わる数学的活動を通して、図形の構成や性質についての理解を深める。
	5年	○小数の概念をとらえる問題では、目標値を上回った。 ●「データの活用」領域において、表から読み取れることを考察する問題の正答率は目標値を大きく下回った。 ●身近にあるものの面積を求める問題では、目標値を大きく下回った。	□デジタルドリルの活用や復習の機会の設定を行い、数量の関係や計算のきまりに関する内容を中心に既習事項の理解と定着を図る。 □データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、データから必要な情報を読み取る力を高める。 □身の回りの具体物を実際に測定・計測するなどの数学的活動を取り入れ、量感を養ったり学習と実生活とのつながりを感じたりすることができるように授業改善を図る。
	6年	○「数と計算」領域の問題では、ほとんどの問題で目標値と同程度の正答率となった。 ●割合を示す図を選ぶ問題では、全国の正答率を下回った。 ●立方体の体積の求め方や、直方体を構成する面についての問題では、全国の正答率を大きく下回った。	□既習事項の復習においてはその意味を確認し、内容の定着を図る。 □単位量あたりの大きさを求める学習では、2つの数量関係を線分図に表すことで基準量を割合の関係の整理できることを確認していく。 □具体物・模型図・デジタル画像などを用いて定義に立ち返り、図形の構成や性質についての理解を深める。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○ICTを活用して、情報収集・整理、発信ができると回答した児童の割合は県や全国に比べて高い。 ○話し合いに積極的に参加することや、他者との対話によって自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることに対する肯定的回答の割合が高い。 ●学習したことを次の学習や実生活につなげていると感じている児童の割合が低い。	□クラウド環境の活用を積極的に行い、多様な考えと自分の考えを比較しながら学びを深める実践を重ね、対話的な学びをより充実させる。 □授業の中で、体験的活動を意識的に取り入れ、児童がより実生活につながることがイメージできるような授業づくりをする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習を自分から進んで行う習慣が身に付いている児童の割合が全国平均よりも高い。 ●読書が好き・読書を行っている児童の割合が低い。 ●主体的に計画を立て、学び方を考えたり、工夫したりする児童の割合が低い。	□学習に関連する図書の紹介を行ったり、家庭読書の取組を継続したりして、児童の読書意欲を高める。 □自分に合った内容を選んで学習する経験を重ね、自分の思いをもって主体的に学習に向かう意欲を高める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」という設問への肯定的回答率が低い。 ○健康に過ごすために学んだことをしっかりと役立てていると答えた児童の割合が高い。 ●「地域の行事に参加している」児童は、全国平均を大きく下回っている。	□生活科や総合的な学習の時間等で地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域への感心や愛着をさらに高める。 □地域への関心が高まるよう、行事やイベントなどの紹介を行う。 □児童の学力向上のために、望ましい生活習慣づくりをめざした学習を計画的に実施したり、家庭へ働きかけたりすることを継続していく。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生国語は、市平均、全国平均正答率共に、大きく下回っている。
- 4年生算数は、市平均、全国平均正答率共に、大きく下回っている。
- 5年生国語は、市平均正答率、全国平均正答率共に、大きく下回っている。
- 5年生算数は、市平均正答率、全国平均正答率共に、大きく下回っている。
- 6年生国語は、県平均正答率を上回っており、全国平均正答率とほぼ同程度である。
- 6年生算数は、県平均正答率と同程度であり、全国平均正答率よりは下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○言葉の特徴や使い方に関する事項、読むことについては、一定の定着が見られる。 ●書くことについては、スコアが全国・市町村より大幅に下回っている。書かないなどの未回答も多々見られる。 ●情報の扱い方に関する事項についても大幅に下回っている。読むことがある程度できていることから、読み取ったことを関連させる思考に力不足がある。	□読書量を増やし、文字情報への抵抗感を減らす。 □文字情報から読み取ったことを、事実・考え・課題など項目を立てて整理する学習を教科横断的に取り入れる。ICTの良さを生かし、大量な情報処理の技術を身につける。 □文章構造を学びながら、自分の考えを簡潔にわかりやすく表現できるような指導を繰り返していく。
	5年	○物語の内容を読み取るは全国平均を上回っている。 ●漢字領域は全国平均より大きく下回っており、漢字を正しく読むことはほぼできているが、正しく書くことに課題がある。 ●書くことの領域は、全国平均より大きく下回り、課題がある。特に、相手や目的を意識して、自分の考えを明確にして文章を書くことは課題がある。	□漢字学習の取り組み方を伝え、タブレットドリルを活用し、当該学年までの徹底を図る。 □短作文シートで目的をもって文章を書く練習をする。
	6年	○国語科のほぼ全ての区分において、県平均正答率を上回る。(言葉の特徴や使い方に関する事項は同率)「思考・判断・表現」を問う問題については、全国平均を0.4%上回っている。 ○R7年度との経年比較の結果、「情報活用能力」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域において、大幅な向上が見られた。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分において、61.6%の正答率。全国平均正答率66.8%を5.2%下回っている。	□言葉の持つ意味や使い方をニュアンスやイメージで留まらず、正しい意味や文法を適切に捉えられるように指導する。 □言葉や意味の暗記で終わらないように、日々の学習活動や他教科の学習の中でも意識的に使い、他教科との関連させながら指導にあたる。 □情報同士を関連付けて考えを構築したり、言語化したりする経験を充実させる。
算数	4年	○解答の記述形式に優位性が見られる。 ○活用問題については、全国・市町村のスコアと同等になっている。 ●全スコアが市町村・全国を下回っている。解答率90%以上の上位群がかなり少ない。最後まで解答仕切れない、ケアレスミス、問題が読み取れないなどの原因が考えられる。 ●全分野を通して、基礎事項のスコアが低い。	□基礎計算力が定着できるように、解答の正誤にこだわって練習を重ねる指導を繰り返す。 □授業内の適用問題を精選したり、増やしたりすることで、解答仕切ることへのこだわりをもたせるようにする。 □算数科を好きになるように日常生活とつなげた問題に取り組みせたり、既習事項を生かした問題づくりをさせたりなど指導を繰り返す。
	5年	○基礎的な四則計算の正答率は全国平均である。 ●図形領域で課題が見られる。およその面積を推測したり、作図したり場面での正答率が全国平均より大きく下回っている。 ●データの活用領域に課題が見られる。グラフかや表の結果から考察する問題での正答率が低い。	□基礎的な計算力が定着するように、練習を重ねる。 □教科横断的にデータやグラフの読み取りに力を入れて指導し、データを読むことのよさを実感できるようにする。 □具体物や半具体物を活用し、実感を伴って学習内容が理解できるようにする。
	6年	○図形領域を除いたすべての領域において、県平均正答率を上回っている。 ○R7年度との経年比較の結果、データの活用領域において、大幅な向上が見られた。(R7県平均+9.2%) ●「思考・判断・表現」は38.7%という結果であった。これは全国平均正答率45.4%を6.8%下回っている。 ●図形領域は47.6%という結果であった。これは全国平均正答率55.3%を7.7%下回っている。	□高学年でも、具体物や半具体物を活用した、実感を伴う学習を強化していく。 □図形の性質やきまり、計算の性質やきまり等を言葉で説明する言語活動をに取り入れ、根拠を明確にしながら「なぜこの式になるのか」「どうしてこのやり方になるのか」という思考プロセスを充実させる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4、5年生は国語、算数ともに先生の話を開けていると感じている児童の割合が高い。 ○6年生は人と違う意見を言い合って話し合う活動を楽しみ、話し合いで自分の考えを深めていると感じている児童の割合が県、全国よりも高い。伝え方の工夫を意識している児童の割合も高い。 ○6年生はICTをうまく使って学習を進めることができていると感じている児童の割合が県、全国よりも高い。 ●4、5年生で話し合いで自分の考えを話している児童の割合は低い。 ●成績下位層ほど、先生に質問している児童の割合が低い。 ●6年生は国語や英語の学習が好きな児童の割合が低い。 ●新聞や本等の読書時間が県、全国よりも下回っている。	□自由進度学習を取り入れ、手引きの提示、cloudの活用による学習状況や意見の共有、自分のめあて設定と振り返り等を行うことで、自己調整学習のサイクル(予見、遂行コントロール、自己分析)と、探究的な学習のサイクル(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を回していく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○学校の勉強のことに家庭で話をしている児童の割合が高い。 ○平日・休日ともに1～2時間程度の家庭学習をする習慣は身についている。 ●休日に3時間以上家庭学習をする児童の割合は全国よりも低い。平日は宿題(与えられた課題)はしているが、休日に自ら問いを深める探究的な学習をしている児童は少ないと考えられる。 ●学校の学習においてのICT活用頻度は全国を大きく上回っている一方で、家庭学習ではICTをあまり活用していない児童の割合が高い。	□宿題(与えられた課題)をこなすだけでなく、家庭学習においても自己調整学習のサイクルを大切に、自らの学びをデザインしていく力を養う。 □他児がどのような家庭学習で行っているのか共有し、自らの家庭学習の質を高めていく。 ●<例> ・週末に、児童が自ら学習目標と内容を決定、実行、振り返りを行う。 ・どのような家庭学習を行っているかICTツールの掲示板を利用して共有を図る。 ・家庭学習におけるICTの活用方法の情報を児童に発信する。 ・学習の終わりに児童に問いを投げかけ、調べてみたいという意欲をもたせる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●SNS中心の流れに対応できず、家庭での自浄作用が十分に機能していない状況にある。学校との連携も難しい。●地域とのつながりは大切なことであるという認識を持ちながらも、積極的に関わろうとしていない様子が窺える。●学校に行き辛さを感じている児童は全国的にも多いが、本校児童においては、比較的自己肯定感が高く、友だちや先生・家の人から認められているという意識も高い。	□生活習慣の取組を継続するとともに、引き続き自己決定のできる児童を育成していく。□地域学習において、児童がより主体的に意見を表明することのできる取り組みを充実させていくことによって、地域への愛着を深めていく。□本離れ・読書離れの傾向が一層顕著になってきている。タブレット学習・自由進度学習を推進していく上での大きな課題として捉えていくべき。自分だけの世界で様々な事象が完結されていく流れには気を付けたい。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生:国語の平均正答率は市と同程度、全国と比べるとやや下回る。算数は、市、全国とともに下回っている。
 5年生:国語の平均正答率は市と全国と同程度。算数の平均正答率は市を上回っているが、全国は下回っている。
 6年生:国語は県と同程度、全国を大きく下回っている。算数は県と同程度、全国を大きく下回っている。

国語
 ●4年生、6年生は、知識・技能に関する問題に課題がある。
 ●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。

算数
 ●4年生は知識・技能に関する問題に課題がある。
 ●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を読み取る問題の正答率が高かった。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができています。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読み取る問題では、全国平均を大きく下回った。 ●文章を書く問題の正答率が全国平均を大きく下回った。	□タブレットPCを用いてタイピング練習をする機会を増やしたり、家庭学習でローマ字を学習する日を設けたりして、ローマ字に触れる機会を増やす。 □日々の授業で、自分の意見を書いて表現する活動や、短時間で伝えたいことを書いてまとめる活動を積極的に取り入れる。
	5年	○漢字、言語の正答率が全国平均を大きく上回る。 ○説明文の読み取りの正答率が全国平均を上回る。 ●文章を書くことの正答率が全国平均を大きく下回る。	□授業の中で自分の立場、根拠、理由を明確にして記述する時間を確保する。 □朝学習の時間等に、指定された条件に合わせた文章を書く経験を積み重ねる。
	6年	○話すこと聞くことにおいて、自分の考えが伝わる工夫について理解することができています。 ○読むことにおいて筆者の考えとそれを支える理由、事例などの関係について理解することができています。 ●漢字を書くことについて課題がある。 ●記述の問題については、自分の考えや経験と結びつけて書くことが苦手な傾向がある。	□漢字を書く力をつけるために、定期的に書き取り会を実施する。 □授業の中で自分の考えや経験を書く場面を増やすとともに、書き方を指導する。
算数	4年	○□を使って式の領域は平均よりも上回る。 ○円と球・三角形の領域は平均よりも上回る。 ●大きい数や分数の数の概念の理解に課題がある。 ●文章を読んで理由を書く問題において課題がある。	□普段の授業でも、式や答えの求め方を記述で表現する経験を重ねる。 □単元の中で定義や数の仕組みを繰り返し確認する。
	5年	○数と計算領域のわり算と小数の問題の正答率は、平均よりも上回る。 ○図形領域の面積の問題の正答率は、平均よりも上回る。 ●データの活用領域における折れ線グラフと表の正答率は、平均よりも下回る。 ●活用問題の中でも、記述式問題の正答率は、平均よりも大きく下回る。言葉を使って問題を解くことに課題が大きい。 ●図形領域における、単位量の感覚や作図、垂直な直線の理解に大きな課題がある。全国的な課題でもある。	□社会科等においても教科横断的に学力の定着を図る。 □文章で説明する力を養うために、授業の中で式だけではなく、言葉を併用して説明させる習慣をもたせる。 □身近な数量感覚を養うために、体験的な算数活動を積極的に行う。
	6年	○測定の問題は正答率が高い。 ○無回答率が低い。 ●図形の体積を求める問題は全国に比べ正答率が低い。 ●記述式(理由や求め方を書く)、読解力を求められる問題に苦手意識がある。	□立体の名前とその立体の性質がつながるように繰り返し練習する。 □記述式の問題に慣れるように授業でも取り組む。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4年生は、きちんとノートを取ったり、話し合いで自分の考えを進んで話したりしている。 ○4年生は、分からない言葉があったら、辞書を引いて調べたり、先生に質問したりしている。 ●5年生は、辞典を使用して調べものをする時間が少ない。 ●5年生は、わからないことがあれば先生に聞く児童の割合が、算数は全国平均より低い ○6年生は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる児童が多い。 ○6年生は、わからないことがあったときに、自分に合った学び方を考えて知ろうとしている児童が多い。 ○6年生は、国語や算数が好きな児童が、全国や県と比べても10ポイント以上多い。 ●6年生は、国語の授業において、できるようになったことへの実感が少なく、達成感を感じることが少ない。	□6年生の国語の授業において、具体的にどのようなことができるようになった、今までは書けなかった文章が書けるようになったなどを伝えるようにする。 □調べ学習をする時には、タブレットだけでなく、辞典などを活用できるように指導する。図書室などに新聞を置いて、目にとまるようにする。学習の合間などに読書の時間を設け、本に触れる機会を増やすことを通して、様々な活字の媒体に触れることができるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●4年生は、勉強に関するテレビ番組を見たり、新聞を読む機会が少ない。また、読書量も少ない。 ●5年生は、本や新聞を読んでいる児童の割合が全国平均より少ない。 ●5年生は、家の人から言われなくても学習に取り組んでいる児童の割合が、全国平均より少ない。 ○6年生は、読書が好きな児童が多い。	□図書館司書と連携して、学習単元の関連図書の用意や調べ学習の充実を図っていく。 □意図的に読書する時間を確保する。クラスごとの図書館利用時間を有効的に活用する。 □家庭学習週間を、現在の2回から5回に増やす。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○4年生は睡眠時間が十分に取れており、体を動かすことが好きな児童が多い。 ●4年生は地域のことは好きだが、地域の行事への参加、家の手伝いをする機会が少ない。 ●5年生は、地域の行事に参加している児童の割合が、全国平均より低い。 ○5年生は、睡眠不足にならないようにしている児童の割合が、全国平均より高い。 ○5年生は、自分で時間を決めてテレビを見ている児童の割合が、全国平均より高い。 ●6年生は全国と比べて学校の授業以外で英語を使う機会が少ない。	□4年生は、総合的な学習で、地域のことを学び地域の行事へ興味を持てるように伝えていく。 □6年生は、家庭学習として、タブレットなどの機器を使用し、英語の音声の聞いたり話したりする課題に取り組む。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【4年生による出雲市の学力調査】
 ●国語、算数ともに市平均を大きく下回る。●国語では漢字を書くこと、文章を書くことで特に課題が見られる。●算数ではかけ算、□を使った式で特に課題が見られる。

【5年生による出雲市の学力調査】
 ○国語、算数ともに市平均と同程度である。○国語では活用問題で正答率が市平均を上回る。●算数では分数、簡単な場合についての割合で特に課題が見られる。

【6年生による全国学力調査】
 ●国語、算数ともに市平均を大きく下回る。●国語では漢字を書くこと、文章を書くことで特に課題が見られる。●算数では測定、データの活用で特に課題が見られる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を読むこと。 ●漢字を書くこと。 ●自分の考えを明確にして、条件に合わせて文章を書くこと。	□書き取り会を定期的に行い、漢字練習を繰り返し行う。タブレットドリルなどを用いて、既習の漢字の練習に取り組む。既習の漢字を文章の中で適切に用いて書く活動を行う。 □自分の考えを言語化し、思いや考えを書く練習を繰り返し行う。
	5年	○自分の考えを、理由や事例との関係を明確にして文章を書くこと。 ○叙述を基に、文章の内容を捉えること。 ●漢字を書くこと。 ●話し合いの内容を聞き取ること。	□書き取り会を定期的に行い、漢字練習を繰り返し行う。タブレットドリルなどを用いて、既習の漢字の練習に取り組む。既習の漢字を文章の中で適切に用いて書く活動を行う。 □ペアやグループで話し合ったり、考えをまとめたりする活動を計画的に取り入れ、話す・聞く力を育てる。
	6年	○文章全体の構成を捉えること。 ●漢字を書くこと。 ●条件に合わせて自分の考えを書くこと。約45%が無回答。	□書き取り会を定期的に行い、漢字練習を繰り返し行う。タブレットドリルなどを用いて、既習の漢字の練習に取り組む。既習の漢字を文章の中で適切に用いて書く活動を行う。 □条件に合わせて文章を書く活動を取り入れる。
算数	4年	○時刻を求めること。 ●繰り上がりのあるたし算の筆算。かけ算の筆算。 ●文章を読んで立式すること。式に合った文章を選ぶこと。	□朝学習の時間や計算会で、基礎的な計算問題に継続的に取り組む。 □立式した理由を書いたり話したりする活動を繰り返し行う。
	5年	○小数のたし算を計算すること。 ○計算の順序を理解している。 ●整数、真分数、仮分数、帯分数の大小比較をすること。 ●基準量を求める除法の文章問題を表した図を選んだり、図を使って基準量を求めるための除法の立式をすること。	□分数の大きさについて反復練習を通して、理解を深める。 □授業の中で、文章問題から図を書いたり、図から式にしたりする活動を繰り返し行う。
	6年	○小数の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくること。 ●数量の係数に着目して、条件に合う時間を求めること。 ●2つの表から誤りのある項目を見つけ、その根拠を記述すること。	□文章問題の学習で何を問われているのか、どうやって解くべきなのかを考えさせる経験を積ませる。 □授業の中で、理由を記述したり説明したりする活動を計画的に取り入れ、説明する力を育てる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○家の人からも友達からも認められていると感じている児童の割合が多い。 ●辞書を活用する機会が少ない。 ●学習の必要性は感じているが、苦手意識が強い。	□図書館を活用したり、辞書を使用したりする機会を設ける。 □書き取り会、計算会を通して基礎学力を身に付け、達成感を感じられるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題など出された課題をきちんとする児童が多い。 ●家庭学習の時間が少なく、宿題以外の学習に取り組む児童が少ない。 ●本などの活字に触れる機会が少ない。	□自主学習の取り組み方を再指導する。 □定期的に図書館を利用し、読書の習慣づけを進める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○朝食をきちんと食べている児童が多い。 ●就寝時間が安定しておらず、睡眠時間が少ない児童の割合が多い。 ●地域の行事に参加していないと答えた児童の割合が多い。	□すこやかチャレンジ週間を通して、生活について見直すきっかけにする。 □総合的な学習の時間を通して、地域と関わる機会を増やしていく。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生の国語、算数ともに、市・全国の平均正答率より上回った。
○5年生の国語は、市・全国平均正答率と同程度であった。算数は、市の平均正答率と同程度であったが、全国平均正答率よりやや下回った。
○6年生の国語は、市・全国平均正答率より上回っており、算数は、市・全国平均正答率を大きく上回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○叙述を基に段落の内容を捉えること。 ○中心となる語や文章を見付けて要約すること。 ●漢字を正しく書いたり、へんやつくりを理解したりすること。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読むこと。 ●書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えること。	□漢字やローマ字を日常生活の中で使えるような指導を工夫する。 □授業の中で振り返りやまとめなど、書く機会を増やす。 □読書指導や読み聞かせなど学校図書館活用教育の充実。すぐ本が手に取れるような環境整備をする。 □国語辞典等を活用し、語彙を増やすような取り組みを行う。
	5年	○漢字辞典の使い方を理解すること。 ○漢字を正しく書くこと。 ●連用修飾語について理解すること。 ●相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、文章の構成を考えて、文章を書くこと。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くこと。	□情報を整理して書くことや、相手意識をもって書くことの積み重ねをしていく。授業の中で振り返りやまとめ、委員会活動や各行事でのお知らせ文作りなど、書く機会を増やす。 □課題をもって情報収集・整理して伝えるという、学校図書館活用教育の充実を図る。 □読書指導や読み聞かせの充実。すぐ本が手に取れるような環境整備をする。 □新聞記事や資料付きの文章などを活用する。
	6年	○資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ○考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること。 ○話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ●情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うこと。	□課題をもって情報収集・整理して伝えるという、学校図書館活用教育の充実を図る。 □読書指導のや読み聞かせの充実。すぐ本が手に取れるような環境整備をする。 □新聞記事や資料付きの文章などを活用する。
算数	4年	○図が何を表しているか理解し、□を使った式に表すこと。 ●大きな数のかけ算の仕組みを正しく理解すること。 ●具体と結び付けて、単位を捉えること。 ●説明に必要な言葉を選び、その言葉を使って説明すること。	□必要な言葉や数を使って論理的に説明するなど日頃から言葉の重要性を意識させる活動を取り入れる。 □実生活と単位を結び付けて考えられるように指導を工夫する。
	5年	○計算の順序やよまりを理解すること。 ●問題を正しく読み取り、解答に必要な言葉や数を選択すること。 ●小数のわり算で被除数に小数点があるときに小数点をどこにおくのかを理解すること。 ●単位や量の感覚をつかむこと。	□検算やたしかめの習慣を身に付ける取り組みを行う。 □情報を整理して言葉を選んだり、自分の言葉を使ったりして説明をする場の設定する。 □単位や量感を意識できるように具体を使った授業づくりに努める。 □コンパスや分度器を使う活動を定期的に行う。
	6年	○基本的な計算や公式を理解すること。 ●複合的な情報を正しく読み取り、必要な情報を整理、抽出すること。 ●言葉や数式を用いて根拠を明確にし、他者にわかりやすく説明すること。 ●数直線等を用いた数の感覚。	□他教科でも二次元表を活用して日常生活と結び付ける指導の工夫。 □答えだけでなく、根拠を問う授業構造。また、根拠が明確になるような板書の工夫。 □数直線等を活用した数感を育てるような取り組み。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを進んで話したり、相手の話を聞き取っている児童が全国平均を上回った。(4, 5年) ●国語、算数の授業でわからないことがあれば質問していると回答した児童が全国平均を下回った。(4年) ○学級会に関する質問で肯定的な回答をした児童が全国平均を上回った。(6年)	□昨年度の取り組みにより、5年生は「わからないことについて質問している」の質問に肯定的な回答が増えたので、今年度も質問タイムの実施、ペア・トリオの授業展開を継続する。 □今年度も引き続き定期的に学級会を開き、多くの児童が計画委員会を体験できるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習についての質問を肯定的に回答した児童が全国平均を上回った。(4, 5, 6年) ●予習について肯定的な回答をした児童が全国平均を下回った。 ●学習塾、家庭教師、通信添削、図書館の利用については全国平均を下回った。 ●「学習した知識を家の人に話している」の質問に肯定的に回答した児童が全国平均を大きく下回った(5年)	□四絡読書の日、ダウンメディア週間を利用し、図書館活用の啓発活動を進める。 □ICTを活用し、予習を含めた家庭学習に主体的に取り組めるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」の質問に肯定的な回答をした児童が全国平均と同程度であった。 ○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童が全国平均を大きく上回った(6年)	□継続して、コミュニティーセンターを中心とした地域との連携を図り、地域行事への参加を積極的に呼びかける。 □生活科や総合的な学習でお世話になった方への感謝や自分の地域の一員である自覚を持たせる取り組み。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生の国語に関しては、全国の平均正答率を下回り、市の平均正答率と同程度である。算数に関しては、全国と市の平均正答率と同程度である。
○国語の情報の扱いに関する事項、算数の図形とたし算引き算は正答率が高い。
●国語の漢字、文章を書く、算数のかけ算に課題がある。
5年生の国語に関しては、全国の平均正答率と同程度で、市の平均正答率をやや上回る。算数に関しては、全国の平均正答率と同程度で市の平均正答率を上回る。
○国語の情報の扱いに関する事項、算数の図形は正答率が高い。
●国語の書くこと、算数の数の表し方に課題がある。
6年生の国語に関しては、全国の平均正答率と同程度で県の平均正答率を大きく上回る。算数に関しては、全国の平均正答率と同程度で県の正答率を上回る。
○国語では無回答率が低く、算数では記述式の答えにおける正答率が県を大きく上回る。
●国語の情報の扱い方に関する事項、算数の変化と関係に関する事項に課題がある。

○学校や家庭での「きまりを守る」という意識が高く、これが学習の土台になっている。
●読書や新聞を読む習慣が不足しており、活字から情報を得る機会の確保が必要である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語の内容を読み取る問題と自分の考えを根拠をもとに書く問題において、正答率が全国平均より大きく上回る。 ●漢字を書く問題と、相手や目的を意識したり、文章の構成を考えたりして文章を書く問題の正答率が全国平均より大きく下回る。	□定期的に漢字のテストを実施、そのための練習を継続していくことで、漢字を書くことに関する定着を図る。 □文書を書く際に、構成を考え、段落分けやそれぞれの段落に書く内容を確かめるようにする。
	5年	○漢字の読み書きの問題において全国平均を大きく上回る。 ○説明文の内容を読み取る問題において全国平均を上回る。 ●自分の考えを論理的に書く問題において全校平均を大きく下回る。	□授業中に自分の考えをノートに整理して書く活動を意図的に増やす。
	6年	○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめて書く問題については、全国平均を大きく上回る。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題については、全国平均を大きく下回る。	□図や語句などの資料・情報などを関係付ける活動や、そこから自分の考えを表現するなどの活動を取り入れる。
算数	4年	○たし算、引き算の計算問題と円や三角形などの図形の問題において、正答率が全国平均を大きく上回る。 ●2けた×2けたの計算問題に関して、正答率が全国平均より大きく下回る。	□家庭学習や補充学習の時間では、かけ算の九九の定着を図るとともに、かけ算や割り算の反復練習を行い、計算力の向上を図る。
	5年	○図形の領域と角の大きさに関する問題において、正答率が全国平均を大きく上回る。 ●数の概念と2つの数量を比べる問題において全国平均を大きく下回る。	□復習単元において数の概念と2つの数量を比べる問題に重点的に取り組む。
	6年	○分数に関する問題においては、全国平均を大きく上回る。 ●図形に関する問題、変化と関係に関する問題においては、全国平均を大きく下回る。	□問題文を言葉・式・図などの多様な表現に変換し、更にそれらの表現と問題文とを相互に行き来することで、内容理解及び児童の考えを深めていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○先生の話をしっかり聞くことや、自分の考えをノートに書くこと、話し合っ て自分の考えを深めることなど、授業へ主体的に臨む姿勢が全国平均を上 回っている。 ●タブレットをプレゼンテーションや表計算などとして活用できると捉えて いる児童の数はあまり多くない。 ●文章問題を式や図に置き換えて考える児童が全国平均を下回る。	□タブレットの普段使いを進め、楽しいという認識だけではなく、情報を集 めたり表現するためのツールの1つという認識となる使い方を継続していく。 □文章問題を解くときに、図・式・言葉を用いて考えさせ、問題解決の手段を 増やす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習をきちんとしている児童の割合は、全国平均を上回る。 ○分からないことに対して自分で学び方を考え、工夫しようとする自立 的な学習姿勢が高い。 ●普段の読書時間や新聞を読む児童の割合が全国平均を下回る。 ●テストの見直しや授業の復習を行っている児童の割合が全国平均を下 回る。	□普段の宿題などで、タブレットを用いて復習に取り組んだり、読書をした りするなどして、自分で内容を考えて行う家庭学習や時間を設定する。 □テストの直し方や自学での復習の仕方について、学校で教えたり、学級通 信などを通して保護者へ呼びかけたりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○困っている人を助ける行動や、地域社会を良くするために何かしたとい う他者への貢献意識が高い。 ○家庭での学習や遊びの決まりを守って生活する児童の割合が高い。 ●家庭でのスマートフォンやタブレット(SNSや動画視聴など)もメディア利 用時間が長い。 ●家でお手伝いをすることや、学校の準備を自分ですることなどの自立 的な行動割合が低い。	□SNS等の使用法について家庭や外部機関と連携を図りつつ、正しい生活リ ズムや機器の適切な扱いについて、一貫した体制づくりを進めていく。 □児童の自己管理能力や責任感を育むために、家庭と、日常的な役割や持 ち物の自己準備の重要性を共有するなどの連携を図る。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○平均正答率の比較
 ・4年生の国語は市よりやや下回り、全国より大きく下回る。算数は市と全国ともにやや上回る。
 ・5年生は国算ともに市と同程度で、全国より下回る。
 ・6年生は国算ともに市と県と同程度で、全国より下回る。
 ○漢字、計算の定着が見られる。
 ●条件に合わせて文章を書いたり、説明を書いたりするなど書く力に課題がある。
 ●活用問題の正答率が低い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きともに全国平均正答率を上回る。 ○物語の問題で、内容や叙述を基に捉えることは全国平均正答率を上回る。 ●音声聞いて内容を書く問題は全国平均正答率を大きく下回る。 ●条件に合わせて書くことが全国平均正答率を下回る。	□友達の話聞くことができているか言い直しをさせたり、教師の話理解できているか再話させたりなどして、聞き取る力を高める。 □字数や理由や根拠を明確にするなど様々な条件を指導者が設定し、書く経験を積めるようにする。 □様々な文章に触れるためにも「新聞ワークシート」を継続する。
	5年	○漢字を書くことは、全国平均正答率を上回る。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国平均正答率を上回る。 ●条件に合わせて文章を書くことが全国平均正答率を大きく下回る。	□他教科とも関連付け、内容ごとに段落を分けて書く、書く内容の中心を明確にして文章構成を考えるなど様々な条件を指導者が設定し、書く経験を積めるようにする。
	6年	○丁寧に取り組もうとする姿勢がうかがえる。 ○文章の書き方の特徴を捉えることができている。 ●後半にかけて無回答率が上がっているため、時間配分がうまくできていないと推測される。 ●問われていることへの正しい理解ができていない。 ●自分の経験と結び付けにくく、無回答につながっている。	□必要に応じて問いを図式化して考える経験を積ませる。 □自分の経験と結び付けて考えを書く活動を、教科横断的に行う。 □読書の機会を増やし、文章を読む経験を積ませる。
算数	4年	○3年生までの基本的な計算ができている。 ●言葉や式を使って説明する問題に関して、自分の考えを説明する力に課題がある。 ●活用問題の正答率が低い。	□問題に向き合い、途中まででも自分の力で解く経験を積ませる。 □言葉や式を使って理由を説明することを、普段の授業でこまめに行う。 □教科書やテストの応用問題も丁寧に扱う。
	5年	○小数の四則計算、分数の大小比較や計算は、全国平均正答率を上回る。 ●いろいろな形や変わり方調べなどの問題は、全国平均正答率を大きく下回ることから、定着に課題がある。 ●必要な情報(データ)を読み取り、活用することに課題がある。	□個人思考の時間や友達のを聞いて考えを深める時間を大切にする。 □相手意識をもって説明する時間を設定し、根拠をもって自分の考えを伝えられるようにする。
	6年	○著しく学力の低い児童の割合は全国や県と比べて低い。 ○全体を通して無回答率が低く、最後まで粘り強く取り組もうとしている様子が分かる。 ●問題の意味を理解しておらず、文章読解能力に課題がある。 ●表の読み取りができていない。	□普段の授業から、問題で何を聞かれているかを子どもに説明させる時間を取る。 □問題を理解し、図や絵などで整理する習慣を身に付ける。 □授業中、上位層には発展問題にも積極的に取り組ませる。 □宿題で基礎問題や発展問題を選択できるようにする。 □算数だけでなく、他教科でも表の読み取りを強化する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○当該学年までの漢字、計算が身に付いている児童が多い。 ○学年が上がるにつれ、問題に最後まで取り組もうとする姿勢が見られる。 ●問題の情報の多さに対応しきれていない。 ●条件に合わせて書いたり、文章の構成を意識して書いたりすることに課題がある。 ●自分の考えや解き方を説明する力に課題がある。	□主語、述語、修飾語など文を構成している要素を系統的、連続的に指導していく。 □全教科において、相手や目的を意識して伝える、理由や根拠を明確にするなど条件を示して書いたり、発言したりさせる。 □書いたものを推敲させ、よりよい文章にする経験を積ませる。 □個人思考の時間を確保する。その前に見方・考え方を話し合い、解決の見通しを持たせてから行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家で学校の勉強についてたくさん話している。 ●メディアの時間が長く、家庭学習時間や就寝時刻に影響を与えている。 ●ICTが活用できていない。	□学力パワーアップやダウンメディア週間の声かけや指導を強化し、家庭の協力も得る。 □今後もICTを効果的に授業に取り入れ、家庭へのタブレットの持ち帰りを行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○人の意見を認めたり、困っている時に助けてあげたいと考えている児童が多い。 ●新聞にふれる機会が少ない。 ●自己有用感や自己肯定感が低い児童が少なくない。	□3年生以上は、小学生新聞を教室に毎日掲示し、新聞ワークシートに定期的に取り組ませる。 □授業中、指導者から肯定的フィードバックをしたり、児童の頑張りや成長を認めたりして、今後も自己有用感や自己肯定感を高める。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神西小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生国語は、市平均正答率と同程度である。
 ●4年生算数は、市平均正答率及び全国平均正答率を下回る。
 ●4年生国語は、全国平均正答率より下回る。
 ●5年生国語は、市平均正答率を下回り、全国平均正答率を大きく下回る。
 ○5年生算数は、市平均正答率と同程度である。
 ●5年生算数は、全国平均正答率を大きく下回る。
 ●6年生国語は、市平均正答率及び全国平均正答率を大きく下回る。
 ●6年生算数は、市平均正答率及び全国平均正答率を大きく下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を読むこと、主語と述語の関係、国語辞典の使い方についての問題の正答率が高い。 ○物語の内容を読み取る問題の正答率が高い。 ●文章を要約することに課題がある。 ●「書くこと」の領域の正答率が約4割である。	□日々の授業において、自分の考えや学習でわかったことをアウトプットする場を工夫し、意図的に設定する。(友達の意見と比べて自分の意見を表す、学習で分かったことをペア対話した後、文章で書き表すなど) □条件(字数、伝える相手を意識する、理由を明らかにして考えを書くなど)を設定して書く活動を行う。 □説明文、科学系の図書に親しむ機会を意図的に設定する。
	5年	○話し合いの内容をまとめることができる。 ●インタビューで、自分が聞きたいことや相手の伝えたいことの中心を捉えることに課題がある。 ●指定された条件を使って文章を書くことに課題がある。	□日々の授業や家庭学習の中で、主旨(中心)を抜き出したり、まとめたりの活動を行う。 □条件(字数や内容、立場を考えて書くなど)を設定して書く活動を、授業、家庭学習等で行う。
	6年	●どの区分も、市及び全国の平均正答率を大きく下回っている。 ●特に「書くこと」の領域においては、平均正答率が約2割である。 ●特に「読む」領域の長文を読んで適切に答える問題での正答率が低い。	□「書くこと」への抵抗感を減らすために、書き出しを提示したり、書き方のパターンを示したりする。また、短い文章や条件作文を書く機会を増やす。 □語彙を増やすために、文章を読む機会を意図的に設定する。また、ことわざや慣用句などを、学校生活の様々な場面で解説したりすることで、身近な例と結び付けて考える機会をつくる。
算数	4年	○「2けた×1けた」「2けた×2けた」のかけ算の基礎的な計算、棒グラフの読み取り、はかりの目盛りの読み方についての問題が目標値と同程度である。 ●大きな数のたし算・ひき算の計算の正答率が約4割である。 ●文章問題の正答率が低い。	□計算会、朝学習の時間を活用し、基礎的な計算の力の定着を図る。 □授業の中で、文章問題を「図・言葉・式」など様々な方法で表すことによって、文章の意味理解を深めることができるようにする。また、「どのように考えたか」について理由や根拠を明らかにして話ができるようにペア対話を設定したり、全体で共有したりする。
	5年	○簡単な場合についての割合の正答率が目標値と同程度である。四則や()を含む計算の計算順の正答率が目標値を上回っている。 ●分配法則、面積、折れ線グラフと表に関する問題の正答率が目標値を下回っている。 ●記述式で回答する問題の正答率が低い。	□計算会、朝学習の時間を活用し、基礎的な計算の力や今回課題となった単元の復習を行い、基礎学力の定着を図る。 □授業の中で、文章問題を「図・言葉・式」など様々な方法で表すことによって、文章の意味理解を深めることができるようにする。また、「どのように考えたか」について理由や根拠を明らかにして話ができるようにペア対話を設定したり、全体で共有したりする。
	6年	●どの区分も、市及び全国の平均正答率を大きく下回っている。 ●各問題の解答から、問題の情報量が多くなるほど正答率が低くなっている。 ●意味理解について問われている問題に対して正答率が低くなっている。	□普段の授業、計算会等を通して、意図的に基礎的な問題に触れる場面や機会を多く設定し、基礎学力の定着を図る。 □普段の授業の中で、必要な情報を取捨選択できるような場面を設定する。 □意味理解を十分にしていくために視覚的な支援や体験活動を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学習したことを他の学習や実生活で活用しようとする児童の割合が高い。 ●授業中、「自分の考えを伝え合い、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童の割合が市や全国平均より低い。 ●「授業で分からないことがあれば、先生に質問している」と回答した児童が全国平均より低い学年がある。	□効果的にペア対話やグループ対話を取り入れ、自分の考えを根拠を明らかにして話したり、聞いたりする場を設定する。 □児童のつぶやきを大切に、児童の言葉を学習課題とし、授業を進めていく。 □児童の実態やつまづきを把握し、朝学習の時間等を活用し、基礎学力の定着を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○勉強するときは集中して取り組んでいると回答している児童が多い。 ●家庭学習の時間が少ない児童の割合が全国平均と比べて多い。 ●読書をしたり、新聞を読んだりする児童の割合が少ない。	□自学学習のモデルを示したり、自学学習の取り組み方を再度、学級全体で確認したり、家庭学習の充実を図る。 □学校司書と連携し、学級文庫の充実や学校図書館利用の機会を増やし、読書習慣の推進を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と肯定的に回答している児童の割合が市・県平均よりも高い。 ●「学校での出来事を家の人に話している」と回答している児童の割合が全国平均より低い学年がある。	□地域の人材・資源を積極的に活用した教育活動の充実を図る。 □児童の学びや学習活動の様子を、学級便り、学校便り、ホームページ等で発信し、家庭と連携する。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(国語) 全国の平均正答率と比べて4年生・5年生は同程度、6年生は大きく下回る。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項について、5年生は全国を大きく上回る。 ●文章を書くことについて、4年生・5年生ともに全国を大きく下回り、6年生においても話すことを含め表現することに課題がある。 (算数) 全国の平均正答率と比べて4年生・6年生は同程度、5年生は大きく下回る。 ○図形とデータの活用について、4年生は全国を大きく上回る。 ●基礎・活用ともに、5年生は全国を大きく下回り、6年生においても課題がある。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字やローマ字を正しく書いている。 ○物語や説明文の内容を正しく読みとっている。 ●言葉の意味理解や、国語辞典の使い方に課題がある。 ●記述問題、段落分けや文末表現など、形式的なところに課題がある。	□日常的に国語辞典・漢字辞典を活用し、語彙を増やす活動を行う。 □条件作文や段落構成を意識した書く活動を継続する。
	5年	○言葉、漢字など基礎基本について理解している。 ○物語文を正しく読み、内容を理解して答えている。 ●資料から必要な情報を読みとり、整理することに課題がある。 ●必要な情報を整理することに課題がある。	□短作文や日記等、書く活動を継続的に取り入れ、書く内容や構成を意識できるようにする。 □説明文の文章構成や必要な情報に着目して読む活動を充実させる。
	6年	○無回答率が低く、時間内に問題を読んでいる。 ●正しく漢字を書くことについて課題がある。 ●情報の扱い方について課題がある。	□日常の学習や読書を通して新しい言葉に触れる機会を増やし、語彙の拡充を図る。 □学習した言葉を使って文章を書いたり、自分の考えを説明したりする活動を充実させる。
算数	4年	○基礎的な計算技能が身に付いている。 ○図形について理解している。 ●文章題を正しく読み取り、立式することに課題がある。	□文章題の内容を正しく読みとり、必要な情報を整理して立式する活動を充実させる。 □図やグラフの意味を捉え、説明する機会を設ける。
	5年	○小数について理解している。 ○展開図を組み立ててできる立方体の重なる辺について理解している。 ●数の相対的な大きさについての理解に課題がある。 ●基準量を求める除法の文章問題の意味の読みとりに課題がある。	□数の大小や関係を具体物や図を用いて捉え、理解を深める。 □割合の文章題では、基準量・比較量・割合の関係を整理して立式する活動を充実させる。
	6年	○立方体の体積の求め方についてよく理解している。 ○除法の式の意味を理解している。 ●数や言葉を用いて根拠を示し、説明することについて課題がある。	□式や図、数値などを用いて、考えの根拠を説明する活動を充実させる。 □ペアや小グループを活用し、友達と考えを伝え合い、算数の用語を用いて説明する機会を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○基礎・基本を理解している割合が高い。 ○話し合いで、相手の話を聞くようとしている児童の割合が高い。 ●分からないことがあっても、質問したり、辞書を利用したりなどして、進んで調べる児童の割合が低い。 ●自分で考え、説明することができる児童の割合が低い。	□全校で読書をする時間を設け、本に触れる時間を確保する。 □「平田小授業モデル5」(問題解決を楽しめる子ども作りのためのモデル)を実践し、自分の考えをもてる、表現できるようにする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○家の人から言われなくても、進んで勉強している児童の割合が高い。 ○勉強するときは、集中して勉強している児童の割合が高い。 ●本や新聞を読む児童の割合が低い。 ●メディアに接する時間が長く、家庭学習の時間が短い。	□発達段階に合わせ、制限や内容を示した作文や日記、自主学習に取り組む。 □「さわやか週間」の取り組みを通して、メディアとの付き合い方や時間の使い方を考え、実践できるよう指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○体育の授業のほかに運動をしている児童の割合が高い。 ○家族と一緒に夕食を食べている割合が高い。 ●地域の行事に参加している児童や、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合が低い。 ●寝る時間を決めて、しっかりと睡眠をとっている児童の割合が低い。	□生活科、社会科、総合的な学習の時間、クラブ活動などを中心に、地域の人・もの・ことを活用し、地域について知り、自分事として捉える考える場面を設ける。 □「さわやか週間」の取り組みを通して、生活習慣を含めて睡眠時間について考え、家庭と連携して実践できるようにする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立瀬分小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生の国語は、市平均正答率と全国平均正答率を大きく下回っている。算数は、市平均正答率と全国平均正答率と同程度である。
5年生は、国語、算数ともに市平均正答率と全国平均正答率を大きく下回っている。
6年生の国語は、市平均正答率と同程度で、全国平均正答率をやや下回っている。算数は、市平均正答率と全国平均正答率を大きく下回っている。

国語 (成果) 漢字の読み書きや、文章を書く力が定着してきている。
(課題) 文章の読解、条件にあった文章を書くことに課題がある。
算数 (成果) データの活用、日常の事象とつながりのある問題への理解が定着してきている。
(課題) 基礎・基本の定着に課題がある。また、物事を複合的に考えることに課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み、調べたことから文章を書く力がついてきている。 ●条件にあった文章を書くことに課題がある。 ●段落の内容を読み取り、要約することに課題がある。	□書き取り会等を通して漢字やローマ字の書きを定着させる。 □朝活動や授業で条件作文や要約学習を行う。
	5年	○叙述をもとに、登場人物の様子や気持ちを読み取る力がついてきている。 ●漢字に加え、修飾語やことわざ、漢字辞典の使い方等の言葉の理解に課題がある。 ●複数の情報を読み取って必要なことを選んで書いたり、自分の考えを具体的に書いたりすることに課題がある。	□各教科を通して様々な情報の要点をつかみ、まとめる活動を取り入れる。 □書取会や言葉の学習を授業で意識して指導するとともに、朝活動も活用して言葉の学習や漢字の学習を取り入れる。
	6年	○漢字の読み書きや、自分の考えが伝わるようにして文章を書く力がついてきている。 ●情報と情報の関係づけの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使うことに課題がある。 ●情報の取捨選択をし、まとめることに課題がある。	□総合的な学習の時間を中心に、多くの情報から要点をつかみ、まとめていく活動を取り入れる。 □情報を活用して解く問題に継続して取り組み、問題の解き方になれる。
算数	4年	○基礎問題は市町村平均と全国平均をやや上回っており、基礎は概ね定着していると考えられる。 ●活用問題等、文章量の多い問題、図や式の読み取り問題での正答率が低く、文章、図や式を読むことに課題がある。	(4、5、6年共通) □計算会、朝活動、家庭学習などを通して、基礎、基本を定着させる。その際、タブレットドリルを効果的に活用する。 □単元での学習後も定期的に復習する機会を設ける。必要に応じて、学年をさかのぼって補習を行う。
	5年	○日常の事象をデータにまとめた問題の正答率が、市町村平均より上回っており、日常の事象に関連づいたことは、理解しやすいことがわかる。 ●基礎問題、活用問題ともに課題がある。特に図形の見取りやコンパスを使った作図に課題がある。	□授業で、問題文、図、式のつながりを意識させ、問題のイメージをつかめるようにする。友達のを聞き、考えを再現したり、続きを考えたりする場を設ける。 □授業で、解決までの過程を大切に。問題文に下線を引いたり、メモしたりする等、解決のために試行錯誤する姿を評価する。
	6年	○算数より国語の方に強みがある学年ということもあり、文章と表で説明してある問題を読み取ることに強みがある。また、記述で答えることに抵抗が少ない。 ●基礎問題、活用問題ともに課題がある。	□自分たちの生活と関連することは理解しやすいので、授業で問題場面を日常生活に関連付けたり、日常生活から問題を見つめたりする機会をもつようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分によいところがある」と感じている児童が多い。 ●授業の中で自分の考えを広げたり深めたりできていないと感じている児童が多い。 ●授業の予習復習をしている児童の割合が少ない。	□ふりかえりをフィードバックして、児童の気付きを実感させるような授業を行う。 □児童が達成感をもてるように、スモールステップで学習を組み立てる。 □ICTの活用を工夫する。 □既習事項や前時までの学習と本時の学習がつながっているかを意識できる環境を工夫し、予習・復習の大切さに気付けるようにする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	●家庭学習では、目標時間に満たない児童が多い。 ●新聞・本を読んだり、勉強に辞書や参考書、問題集を使ったりする児童が少ない。 ●自分で計画を立てて勉強している児童の割合が少ない。	□家庭学習の質と量を工夫する。 ・学年で決められた目安の時間を意識するような手立ての工夫 ・授業につながる調べ学習の取組 ・タブレットを活用した学習の工夫
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○朝食を摂取している児童の割合が多い。 ●学習以外のメディアの利用時間が長い。	□基本的な生活習慣や家庭での学習時間の定着を図る取組(さわやかてつじんウィーク)時に、学びを意識できる家庭での取組の呼びかけをする。 □メディアとの付き合い方について、児童や保護者に指導、研修していく機会を設ける。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立旅伏小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

第4学年 市学力・学習状況調査
○国語は、全国の平均正答率を上回り、市の平均正答率を大きく上回った。
○算数は、全国と市の平均正答率と同程度であった。
第5学年 市学力・学習状況調査
○国語は、全国と市の平均正答率と同程度であった。
○算数は、全国と市の平均正答率と同程度であった。
第6学年 全国学力・学習状況調査
○国語は、県平均を上回り、全国平均と同程度であった。
○算数は、県平均・全国平均ともに大きく上回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全体的には、全国・市の平均正答率を上回り、どの領域も基礎的な力が身についている。 ○条件付きの文章(作文)を書くこと。 ○既習の漢字の読み書き。 ●初見の文章を正しく読み取ること。 ●中心となる語や文を見つけて要約すること。	□語彙力を高めるために、分からない言葉に出会ったら辞書を引くことを習慣づけたり、新出漢字の学習の際に熟語を調べたりする。また、読書時間を確保したり、読書の幅を広げる働きかけを行ったりする。 □初見の文章の読解に慣れるために、文章の中からキーワードを見つけて抜き出したり、要約したりするような活動を行う。
	5年	○全体的には、全国・市の平均正答率と同程度である。 ○特に「話すこと・聞くこと」、「漢字の読み書き」は、全国・市の平均正答率を大きく上回っていた。 ●言葉の学習の連用修飾語、条件付きの文章を書くこと。	□日記や感想文を書く際に、条件(観点、字数、時間等)を付けて、書くようにする。 □文法の既習事項の定着を図るために、問題に取り組ませる。
	6年	○全体的には、全国・市の平均正答率を上回り、どの領域も基礎的な力が身についている。 ○条件付き作文に自分の考えを書くこと。 ●全体を見て総合的に考えること。 ●情報と情報のつながりを意識して読むこと。情報の整理。	□複数の情報から選択する場合、消去法で丁寧に見つけていく力をつけていく。 □総合的な学習の時間や国語の活動において、複数の資料から必要な情報を取捨選択したり、プレゼンの構想を考えたり、根拠や理由を結び付けて説明のくふうをしたりする活動に力を入れる。
算数	4年	○全体的には、全国と市の平均正答率と同程度である。 ○コンパスを使った図形の作図。 ●四則計算(たし算・ひき算・かけ算・わり算)。 ●問題の意味を正しく理解したり、解答について理由を説明(記述)すること。	□基礎的な計算力の定着を図るために、計算会で取り上げたり、授業の始まりに問題を解く活動を継続していく。 □自分の考えを説明する力をつけるために、形態を工夫(全体・ペア・個人)しながら、図や式、言葉を結び付けて説明する機会を取り入れる。 □量感や数量感覚を培っていくように、生活経験と結び付けながらイメージできるように働きかけたり、ゲーム的な要素を取り入れたりする。
	5年	○全体的に、全国・市の平均正答率と同程度である。 ○角の大きさ、変わり方調べは、全国・市の平均正答率より大きく上回る。 ●折れ線グラフを正しく読み取ること。 ●問題の意味を正しく捉え、式に表したり、式に表された考えを読み取ること。	□基礎的な内容の定着を図るために、授業では、既習事項を確認しながら学習内容のつながりを感じられる授業構成の工夫を行う。 □生活の中にあるグラフや表を活用しながら読み取る活動を取り入れる。 □学習内容に応じた活用問題を解き、自分の考えを言葉や数、式を使って表現する経験を積ませる。
	6年	○全体的に県平均・全国平均共に大きく上回っており、どの領域の正答率も高く、無回答率が低い。 ○既習事項の知識・技能が身についている。 ●式や数の意味を正しく読み取ること。(単位量当たりの大きさ・二次元の読み取り) ●解答への道筋を記述して説明すること。	□解答に至るまでの考えを数や言葉で用いて説明したり友達のを説明したりする活動を取り入れていく。また、日常的にキーワードを用いてまとめる活動に取り組む。 □これまでの学年で学習した内容を家庭学習等にも取り入れて復習する。 □自分たちの生活に関わせた調査データを二次元表に表すなどの経験を取り入れる。また、データから読み取れることを話し合う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学校に行くことが「楽しい」と肯定的な回答をした児童が多い。 ○授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の思いを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと回答した児童の割合が多い。 ●新聞を読むことや読書量の個人差が大きい。 ●ICT機器を授業に活用したと回答した児童の割合が、市や全国と比べて低い。	□ICT機器のよさを生かし、積極的に取り入れていく。 □学校図書館との連携を図り、授業の中で新聞を活用したり、読書の幅が広がるように働きかけたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○平日1時間以上家庭学習(塾も含む)をしている児童が5割程度で市や全国と同程度であった。 ○国語や算数の宿題をきちんとしていると回答した児童が多い。 ●予習をしていると回答した児童の割合は全国を下回る。 ●勉強に辞書や図書館やパソコン、インターネットを利用していると回答した児童の割合が少ない。	□家庭学習において、課題の質と量を見直し、授業で学んだことだけでなく、新しい問題に取り組んだり、辞書や図書・インターネットを活用して調べる活動を取り入れたりするなど、家庭学習の充実を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校でのできごとを話したり、食事を一緒に摂ったりするなど家族の良好なコミュニケーションがなされている。 ○「自分が住んでいる地域が好き」と肯定的に回答した児童が9割。 ●「地域をよくするために何をしたらよいか、考えることがある」に肯定的な回答をした児童の割合は学年によって差がある。	□ふるさとへの愛着や誇り・貢献意欲を醸成するだけでなく、地域のために行動する実践力を育成できるように、ふるさと教育の計画や学習活動を見直す。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立さくら小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全般】	- 正答数のばらつきが大きく、平均値より中央値が低い。 - 問題形式が記述式の問題の正答率が低い。 - 無回答が一定数あり、題意の正確な理解に時間がかかっている。
【国語】	「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。 6年生は、「読むこと」の正答率が全国平均を大きく上回っている。 - 目的や意図に応じて文章を詳しく書くことに大きな課題がある。
【算数】	- 知識・技能の観点の正答率が高く、基本的計算スキルが身につけている。 - 考え方を記述する問題の正答率が低く、思考のプロセスを言語化することに大きな課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	- 漢字の読みは、平均正答率を大きく上回っている。 - 主語・述語の理解はでき、平均を大きく上回っている。 - 物語の内容を読み取り、共有する力がある。 - ローマ字を読むことに課題がある。 - 文章を書く問題を苦手としていて、平均正答率を大きく下回り、無回答の児童が約15%いる。	- ローマ字の宿題を定期的に出したり、書き取り会などに加えたりし、理解を図る。 - 条件付き作文などに取り組み、書く活動への苦手意識を軽減する。 - 文字数の多い本を読むようすすめ、読むことへの抵抗をなくす。
	5年	- 短文問題は、平均を上回っているものがある。 - 作文の力に課題がある。3割程度が無回答であった。 - 文章中や話の要旨をとらえることや要約することに課題がある。	- テスト範囲を細かく区切り、漢字テストを行い漢字練習に取り組むようにする。 - 日記、条件作文など文章を書く機会を作る。 - 話型を提示したり、聞いたことを自分の言葉で短く伝え直したりして伝える力をつける。 - 大事な箇所に線を引く習慣をつける。
	6年	- 話すことについてはこれまでの経験の積み重ねがあり、「話すこと・聞くこと」についての正答率が高い。 - 資料を活用して、考えが伝わるように表現を工夫することについて理解している。 - 選択肢の問題は正答率が高い一方で、記述式問題では低い。 - 集めた情報から必要なことがらを抜き出すことに課題がある。 - 考えとそれを支える理由や事例などとの関係理解に課題がある。	- 国語の学習が将来の社会生活に役立つことを伝え、価値づける。 - 資料から目的に合わせて必要な情報を取捨選択し、条件に合わせて作文に組み入れて表す機会を多く設定する。 - 自分の考えが伝わりやすいように、理由や事例などと組み合わせで話したり書いたりする活動を充実させる。
算数	4年	- 数の相対的な大きさの理解については、平均正答率を大きく上回っている。 - 分数の引き算においては、正答率を大きく上回っている。 - 三角形の作図やグラフの読み取りについては、理解している。 - 円と球についての文章問題について、平均正答率大きく下回り、課題がある。 - かけ算のひっ算は、平均正答率を大きく下回っている。	- 定期的な四則計算の復習を取り入れ、基礎的な計算の力を伸ばす。 - 文章問題を読む力をつける必要があるため、何を問われているのかをはじめに明確にして問題に取り組む習慣をつける。 - 基礎的な計算はできるが、わり算の余りを切り上げて処理する問題を苦手としているので、図にする活動を重視するようにする。
	5年	- 分数(帯分数・真分数)の計算は比較的正答率が高かった。 - 平行四辺形のコンパスを用いた作図の仕方が定着していないことに課題がある。 - 計算方法やグラフから情報を読み取って説明することに課題がある。 - 身の回りの物や数に対する量感覚に課題がある。	- 繰り返しを大事にし、図形の定義など基礎基本の定着を図る。 - 既習事項の復習を行い、できることを積み上げていく。 - 算数の用語の理解と言葉を使って説明する場を設け、説明することに慣れる。 - 具体物や線分図等を用いて視覚的に示したり、自分でかいたりして量感覚を身につける。
	6年	- 立方体の体積の求め方について正しく理解している。 - 小数の記数法の意味を理解しており、正答率が高い。 - グラフを正しく読み取ることができる。 - 記述式の問題の正答率が低い傾向にある。 - 時間が余ったと回答している割合が高いが、短答式の問題の無回答率が高い。 - 割合の関係の理解に課題がある。	- 割合や単位量当たりの大きさについてを取り扱う授業では、時間をかけて丁寧に指導するとともに、復習の機会を設け、定着を図る。 - どの領域においても、問いから回答に至るまでの過程を大事にし、思考過程を子どもたち同士で表現する機会を設けたり、図式化したものを板書等によって全体で共有したりする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	- 人の話を聞いている児童が多い。 6年生は、プレゼンテーションを作成できる児童が多い。 - 話は一生懸命聞いているが、考えながら聞いて、自分の意見をもったり、質問したりすることが難しい児童が多い。 - 分らない言葉があっても、辞書で調べる習慣がない児童が多い。	- 朝活動の時間を活用し、国語と算数の復習などを行い、基礎基本の定着を図る。 - 学習の基盤(準備・姿勢・聞く・話す)を大事にして学年に応じて指導する。 - 学習活動への意欲を高めるため、学習することの意義を伝えたり、努力を認めたりする。 - 振り返り等でICTを活用し、めあて・ゴールを明確にして学習を進める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	4年生は、家庭学習をしっかりと行う児童が多い。 - 作図のときに定規等を使って正確にきれいに描くことができる。 - 習った漢字を日常的に使用している児童が少ない。	- 家庭学習を行ったことが役立つことを実感できるように、授業と関連させた課題を増やす。 - 書取会、計算会を目標を立てて家庭学習に計画的に取り組む習慣をつける - とともに、家庭には、お便りや範囲や実施日を知らせ、子どもに目的意識をもって学習に取り組むよう声掛けなどの依頼をする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	- 学校や自分の住んでいる地域が好きな児童が多い。 - 家族と学校や勉強のことについて話している児童が多い。 - 困っている人の手助けをしている児童が多い。 - 新聞を読んだり、授業以外の時間に読書をしたりしている児童が少なく、動画の視聴などメディアに触れる時間が長い児童が多い。	『さわやか調べ』と合わせ、家庭での過ごし方や、メディアとの関わり方について児童自身が振り返る機会を設ける。また、家庭にも協力を呼びかけ、ルールづくりなどへの協力を依頼する。 - 地域の行事などを話題にしなが、学習活動と関連付けたり、参加を勧めたりする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立朝陽小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査
●4年生国語に関しては、全国平均や市平均を大きく下回った。(以下「平均」を省略)
●4年生算数に関しては、全国や市を大きく下回った。
●5年生国語に関しては、全国を大きく下回り、市をやや下回った。
●5年生算数に関しては、全国や市を大きく下回った。
全国学力調査
●国語、算数ともに全国や県、市を大きく下回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語文の読み取りに強みが見られる。 ●説明文の読み取りに課題が見られる。 ●主語述語の関係(言葉の関係性)の理解に課題が見られる。	□文章構成を捉える力につながる聞き取り問題に取り組む。 □スピーチを基に、やり取りをする(お尋ね)活動に取り組む。
	5年	○漢字の読み書き、言葉の学習の正答率が高い。 ●文章の構成の理解に課題が見られる。 ●連用修飾語の理解(言葉の関係性)に課題が見られる。	□文章構成を捉える力につながる、聞き取り問題に取り組む。 □スピーチを基に、やり取りをする(お尋ね)活動に取り組む。
	6年	○短くまとめた文章の構成の読み取りに強みが見られる。 ●漢字の書きに課題が見られる。 ●条件に合わせて書くこと(引用・情報処理)に課題が見られる。	□朝のスキルタイムや書取計算会を継続して取り組んでいく。 □どの学年でも説明文学習後の言語活動を充実させていく。
算数	4年	○無解答率は市平均と同程度。 ●記述問題の正答率が低く、課題が見られる。 ●長さや重さの量感の理解に課題が見られる。	□授業の中で問題の解き方を説明する時間を意識して設定する。 □学習の系統性や既習内容との関連を意識した授業づくりを行う。
	5年	○小数や角の大きさの基礎的な知識理解は目標値と同程度。 ●データの活用領域の理解に課題が見られる。 ●記述問題の正答率が市平均より低く課題が見られる。	□表やグラフの読み取り、活用の機会を他教科でも意識した授業づくりを行う。 □授業の中で問題の解き方を説明する時間を意識して設定する。
	6年	○数と計算領域の分数の理解については、全国平均と同程度。 ●図形領域の理解に課題が見られる。 ●問題文の内容理解に課題が見られる。	□下学年時から具体物を用いた学習活動を意識的に取り入れていく。 □問題文で問われていることを、子ども同士で説明し合う時間を設定する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業できちんとノートを取っていると回答した割合が高い。 ○体育の授業の他にも運動していると回答した割合が高い。 ●文章問題を図に置き換えて勉強していると回答した割合が低い。 ●自分の考えを説明したり、人の意見について考えたりすると回答した割合が低い。	□ペアやグループでの学習活動の意義を確認し、意図的に取り入れる。 □文章問題を読んで、考え方を図や表に表す学習活動を取り入れていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習をしていると回答した割合が高い。 ○家の人に言われなくても進んで勉強していると回答した割合が高い。 ●予習復習をしていると回答した割合が低い。 ●家庭での読書時間が市や全国と比較して少ない。	□自学に取り組めるような仕組み(チャレンジ表や自学掲示など)を行う。 □今年度行っている家読等の活動を継続する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の行事に参加していると回答した割合が高い。 ●メディアの利用時間が全国と比較して多い。 ●家の人に勉強や悩みについて話をしていると回答した割合が低い。	□メディアの時間をコントロールする力をつける取組を引き続き行う。 □懇談や地域学校運営理事会等を活用し、家庭や地域の方への啓発を行う。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生、全体の正答率は、国語・算数ともに全国平均を大きく上回っている。
○国語・算数ともにくり返し練習して、身に付ける問題の正解率が高い。
●自分の考えを言語化する問題にやや課題が見られる。
5年生、全体の正答率は、国語は全国平均と同程度、算数は大きく上回っている。
○算数の基礎・活用においては、全国平均を大きく上回っている。国語の基礎においては、全国平均を上回っている。
●国語の「書くこと」、算数の「折れ線グラフと表」は全国平均を大きく下回っている。
6年生、全体の正答率は、国語・算数ともにほぼ同程度。
○国語の「読むこと」は、全国平均を大きく上回っている。
●国語の「書くこと」は、全国平均を大きく下回っている。算数の測定、変化・関係は、全国平均を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きに関する問題の正答率が高い。 ○国語辞典の使い方に関する問題の正答率が高い。 ●自分の考えとそれを支える理由を自分の言葉で作文する問題の正答率が低い。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題の正答率が低い。	□自分の考えを言語化する活動を、国語科を中心に幅広く取り入れる。 □作文教材においては、相手意識を持てる教材を選択する。 □他教科や特別活動においても、相手意識や目的意識を重点に指導する。
	5年	○物語の内容を読み取ることの正答率は、全国平均を大きく上回っている。 ●連用修飾語についての理解については、正答率は、約3割。 ●自分の考えを明確にして文章を書くことの正答率は、約4割。	□修飾語については、既習内容の問題を宿題等で実施する。 □書く場面において、自分の考えに理由をつけたり、時間に制限を設けて実施する。
	6年	○文章を読解し、自分の経験と結びつけて考えをまとめる問題は、正答率が高い。 ●文章から引用して、自分の考えが伝わるように書き表す問題は、正答率が低い。	□自分の考えを書く活動では、引用の仕方や慣用句を使うなど具体的な方法を紹介して指導する。 □読書活動の推進。
算数	4年	○「大きい数」「小数」「分数」の問題は、正答率がとても高い。 ○「わり算」「□を使った式」「グラフの読み取り」の問題は、正答率が高い。 ●わり算文章問題の理由を説明する問題は、正答率が低い。 ●何倍かをグラフから読み取る問題は、正答率が低い。	□グラフを書く、読み取る活動を多く取り入れる。 □自分の考えを、言葉や文字で言語化する活動を多く取り入れ、それらの活動を関連付けて指導する。
	5年	○図形についての理解は、全国平均を大きく上回っている。 ●二次元表の読み方の理解は、正答率は約2割。 ●整数、真分数、仮分数、帯分数の大小比較の理解は、正答率は約3割。	□二次元表等を他教科にわたって活用する。 □分数を扱う際に、ほかの数の表し方についても関連付けて指導する。
	6年	○データの活用の問題は、正答率が高い。 ●変化、関係・測定の問題は、正答率が低い。	□量的感覚を養うために、身体を使って量を表したり、問題を解く前におよその見積もりをしてから取り組むようにする。 □条件付きの問題の読み取りができるように、国語科と関連付けながら指導する。 □少人数指導を実施する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○無回答の問題の割合が減った。 ○ノートを丁寧にしている児童の割合が高い。 ○言葉遊びやパズルに取り組んでいる児童の割合が高い。 ●予習に取り組んでいる児童の割合が低い。 ●新聞を読む習慣がついている児童の割合が非常に低い。 ※少人数の学校のため、学年による隔りがあります。	□個人思考と学び合いの学習時間の確保する。 □見通しを持って取り組めるように、めあて・まとめ・振り返りを中心に授業を組み立てる。 □ホームルームや各教科の指導に新聞やニュースを取り入れる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題を提出している児童の割合が高い。 ●教科によって取り組みへの意識に差が見られる。 ●予習に取り組んでいる児童の割合が低い。 ●授業以外に学習時間が少ない児童の割合が高い。 ※少人数の学校のため、学年による隔りがあります。	□発達段階に応じた適量の宿題提示、家庭学習の時間や内容のめやすの紹介をする。 □宿題の各教科・内容のバランスを見直す。 □学級だより等にパズルや難問、コラムなど、学習意欲の向上に効果的なものを提供する。 □単元の見通しを示し、予習を促す。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家庭で家族と話している児童の割合が高い。 ●寝る時間やメディアの時間など、約束を決めていない上の割合が高い。 ●社会の出来事に関心を持っている児童の割合が低い。 ●読書量が少ない。 ※少人数の学校のため、学年による隔りがあります。	□学級活動・道徳を中心に生活時間について考える機会を設ける。 □「多伎っ子ウィーク」の取り組みを継続して行う。 □ホームルームや各教科の指導に新聞やニュースを取り入れる。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全国学力調査では、6年国語の平均正答率は全国・県・市平均を大きく上回っている。6年算数についても、市・県平均を大きく上回り、全国平均をやや上回っている。市学力調査では、5年国語は市平均を大きく上回り、全国平均をやや上回っている。また、5年算数は市平均・全国平均を大きく上回っており、基礎的・基本的な知識・技能について一定の定着が見られる。

●4年では、国語・算数ともに平均正答率が市平均・全国平均を下回っており、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る必要がある。また、各学年の結果から、国語・算数に共通して、問題文や複数の資料から必要な情報や条件を捉え、それらを関連付けて考えたり、根拠や考えた過程を言葉で表現したりすることに課題が見られる。

○学習状況調査では、4・5年生ともに「学校が好き」「地域が好き」「自分が好き」などの項目について肯定的な回答が多い。また、全国学習状況調査においても、「学校に行くのが楽しい」「先生は、よいところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたい」「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に進んで取り組んでいる」などの項目で肯定的な回答が多い。

●学習したことを実生活と結び付けて考えたり、必要な情報を自ら選択して活用したりすることについては、さらに力を伸ばしていく必要がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○基礎的な漢字の読み書きについては、一定の定着が見られる。 ●平均正答率は市平均及び全国平均を大きく下回っている。特に、説明文を読み、目的に応じて中心となる語や文を見付けたり、必要な情報や条件を捉えたりすることに課題が見られる。	□「何のために読むのか」「どの情報が必要なのか」を意識させ、目的に応じて必要な語や文に線を引いたり、根拠を確かめたりする活動を取り入れる。また、説明文を中心に、文章のまとまりや中心となる語句を捉える学習を丁寧に行う。 □短い作文や100マス作文など、日常的に書く活動を取り入れ、考えを言葉で表す力を育てるとともに、問題文の条件や問われていることを確認してから答える習慣を身に付けさせる。
	5年	○平均正答率は市平均を大きく上回り、全国平均をやや上回っている。漢字の読み書きなどの基礎的な内容や、決められた字数で最後まで書き切ることについては、概ね定着している。 ●文章を正確に読み取り、問いの根拠となる部分を捉えたり、複数の資料を関連付けて考えたりすることに課題が見られる。	□読書を楽しむ活動や言葉の意味を確認する活動を通して語彙を増やすとともに、初めて読む文章に触れる機会を増やし、読後に感想を書いたり、内容を要約したりする活動を取り入れる。 □条件付き作文など、目的や条件を意識して書く活動を継続して行う。また、学習の初めと終わりの考えを比べるなど、自分の考えの変化に気付く活動を取り入れ、「文章のまとまり」「要旨」などの学習用語の定着を図る。
	6年	○平均正答率は市・県・全国平均を大きく上回っており、基礎的・基本的な内容について概ね定着している。 ●文章や資料の中から目的に応じて必要な情報を選び、問題に示された条件に合わせて文章にまとめたり、読み取った情報と自分の考えを関連付けて説明したりする力をさらに伸ばしていく必要がある。	□新聞記事など、複数の情報を含む文章を活用し、目的に応じて必要な情報を取捨選択する活動を取り入れる。また、「どの情報を根拠にしたのか」を明確にし、文章に書かれていることと自分の考えを関連付けて説明する活動を充実させる。 □字数や使用する言葉などの条件を設定した作文に継続的に取り組み、文章を書く前に必要な情報や条件を確認する習慣を身に付けさせる。
算数	4年	○四則計算など、基礎的な計算については一定の定着が見られる。 ●平均正答率は市平均及び全国平均を下回っている。既習の計算技能について、繰り返し練習することで定着を図る必要がある児童が見られるほか、数量や図形を具体的な場面やイメージと結び付けて捉えることに課題が見られる。	□朝学習などを活用して四則計算を継続的に練習し、基礎・基本の定着を図る。また、既習事項を振り返りながら、学習した内容を繰り返し活用する場を設ける。 □授業では、具体物や絵、図、数直線などを活用し、数量や図形を視覚的・体験的に捉えられるようにする。また、答えを求めるだけでなく、「なぜそうなるのか」「どのように考えたのか」を説明する活動を取り入れる。
	5年	○平均正答率は市平均及び全国平均を大きく上回っている。基本的な四則計算や、公式を利用して答えを求めることについては概ね定着している。 ●大きな数や小数などの数の概念や数量感覚、問題に示された条件を正確に読み取ることに課題が見られる。また、式やグラフから読み取ったことや、自分の考えを言葉で説明することにも課題が見られる。	□問題から必要な情報を読み取り、考えたことを言葉で説明したり、問題を要約したりする活動を日常的に取り入れる。また、答えの正誤だけでなく、答えを導き出した過程や理由を説明することを大切にすること。 □日常生活にある数量を身近なものと比較したり、具体物を用いて大きさや量を確かめたりすることで、数量感覚を養う。図形や面積等についても、具体物を操作したり実際に測ったりする活動を取り入れ、小数のわり算や作図など、手順の定着が必要な内容については繰り返し練習する機会を設ける。
	6年	○平均正答率は市・県平均を大きく上回り、全国平均をやや上回っている。基礎的・基本的な内容については概ね定着している。 ●問題に示された複数の条件から必要な情報を選び、関連付けて考えることや、答えを求めた理由や解決の過程を言葉で説明することについては、さらに力を伸ばしていく必要がある。	□選択式の問題でも記号や答えだけで終わらせず、「なぜその答えを選んだのか」理由を言葉で説明する活動を取り入れる。また、問題文の条件や必要な情報に線を引いたり、図や式に整理したりして、情報を関連付けて考えられるようにする。 □式や答えだけでなく、考え方や解決の過程を言葉で説明する機会を日常的に設ける。また、友達の考えと比較し、「どの情報を使ったか」「どのように考えたか」を説明し合う活動を取り入れる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いの場面で、互いの意見を大切にしなが課題の解決に取り組むことについて、肯定的な回答が多い。また、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に進んで取り組んでいる」などの項目についても、肯定的な回答が多い。 ●学力調査の結果から、問題文や複数の資料から必要な情報や条件を読み取り、それらを関連付けて考えたり、根拠を明確にして自分の考えを表現したりすることに課題が見られる。	□各教科の授業において、「どこから分かったのか」「なぜそう考えたのか」を問い、根拠を明確にして説明する活動を意図的に取り入れる。 □文章・図・表・グラフなど複数の情報から必要な情報を選び、関連付けて考えたり、友達の考えと比較して自分の考えを見直したりする活動を継続する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○朝食や夕食をしっかりと食べている子の割合や、「自分は家の人から認められている」と感じることにについて、肯定的な回答が多い。 ●本を読むことについては学年や児童による差が見られる。また、新聞を読んだり、学習に辞書やパソコン等を活用したりすることについては、さらに充実を図る必要がある。	□漢字・語彙・計算などの基礎・基本を定着させる家庭学習を継続するとともに、一律の課題だけでなく、児童が自分の課題を意識して内容を選んだり、学習方法を工夫したりできるようにする。 □学校で本や新聞等に触れる機会を設け、読書や調べ学習を充実させるとともに、授業で学んだことや興味をもったことを家庭学習につなげる取組を進める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域のことが好き」という項目について、4・5年生ともに肯定的な回答が多く、地域を好意的に捉えている児童が多い。 ●学力調査及び学習状況調査の結果から、学習したことを日常生活や社会の場面と関連付けて考えることについては、さらに力を伸ばしていく必要がある。	□算数科等において、買い物、時刻、長さ、重さ、面積など、日常生活にある数量を取り上げ、学習したことを生活と結び付けて考える活動を取り入れる。 □生活科や総合的な学習の時間等において、地域の「ひと・もの・こと」を生かし、学んだことと実生活や社会とのつながりを実感できる学習を進める。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

《国語》 ○4、5、6年生の全体の正答率は、全国平均と同程度である。思考・判断・表現に関する内容のうち、5年生は「話すこと・聞くこと」、6年生は「話すこと・聞くこと」「読むこと」について、全国平均を大きく上回る。 ●知識・技能に関する内容のうち、「情報の扱い方に関する事項」について、4年生は全国平均を大きく上回るが、5年生は全国平均を大きく下回る。 ●思考・判断・表現に関する内容のうち、「書くこと」について、6年生は全国平均を下回り、4年生は全国平均を大きく下回る。 《算数》 ○4、6年生の全体の正答率は、全国平均をやや上回る。4年生は「図形」、6年生は、「測定」「変化と関係」「データの活用」について、全国平均を大きく上回る。 ○問題形式について、4年生は「短答式」、6年生は「選択式」について、全国平均を大きく上回る。 ●5年生は、「変化と関係」について、全国平均を大きく下回る。問題形式については、「短答式」「記述式」について、全国平均を大きく下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○物語文の内容を読み取ることは、全国平均を大きく上回っている。 ○漢字を読む問題は全員が完答、情報の扱い方に関する内容は、全国平均を大きく上回っている。 ●漢字を書くこと、発問に対して条件に合わせて考えをまとめることが全国平均を大きく下回っている。無解答も多い。	□漢字、条件作文など、スキルアップの機会を定期的に設ける。 □既習漢字を生活の中で使えるように、書取会で活用力を高めるための問題を取り入れる。
	5年	○話し合いの内容を聞き取ったり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりすることについて、全国平均を大きく上回っている。 ●漢字を書くことについては、全国平均を大きく上回るが、個人差が大きい。 ●漢字辞典の使い方に関する内容は、全国平均を大きく下回っている。	□既習漢字を繰り返し練習することで、漢字の定着を図る。 □様々な学習の中で、辞典や百科事典、書籍などを使って調べる機会を意図的に設け、情報を正しく扱うことができるように指導する。
	6年	○文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けてまとめて書く問題の正答率は全国平均をやや上回っている。 ●条件に合わせて、抜き出し、自分の考えが伝わるように書く問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●既習漢字「短い」の正答率が全国平均を大きく下回っている。	□既習漢字を使うことを意識する(国語辞典の使用、視写、ドリルパークの活用など)。 □引用した内容をもとに自分の考えを書く活動を、日々の授業の中で継続的に取り入れる。
算数	4年	○数と計算は、全国平均を上回り、データの活用は、全国平均をやや上回っている。 ○図形領域の基礎的な内容は、定着している。 ●答えは求められるが、その根拠や理由を説明することに課題がある。	□問題の解き方や考え方などを書いたり説明したりする機会を授業の中で設ける。 □タブレットなどを用いて、既習事項について確認したり、復習問題に取り組んだりする時間を確保する。
	5年	○概数の表し方、()の混じった式の計算については、全国平均を上回っている。 ●図を使った基準量を求めるための立式や、伴って変わる2つの数量の関係の立式については、全国平均を大きく下回っている。	□問題文や図を読み取って立式をしたり、記号に置き換えて考えたりする力を伸ばすために、既習事項を振り返りながら、数値の関係を正しく捉えられるようにする。 □タブレットなどを用いて、繰り返し復習問題に取り組めるようにする。
	6年	○算数は全体的に全国平均を上回っている。 ●体積の意味について理解しているかどうかをみる問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●問題文の意味を正確に読み取ること課題がある。	□公式の意味を理解したうえで既習事項の復習をする。 □問題文を繰り返し読んで、問われていることを整理する(図に表す等)習慣をつける。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4・5年生は、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと回答した児童の割合が高い。 ●6年生は、算数の授業で、どのように考えたのか説明をする活動をよく行っていたかという項目に対して、肯定的回答の割合が低い。	□算数の授業を中心に、問題の解き方や考え方などを書いたり説明したりする場面を計画的に取り入れる。 □個別指導や書取会、計算会の実施により、既習事項が確実に定着できるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○4・5年生は、毎日の宿題をきちんとしていると回答した児童の割合が高い。 ●家庭での学習時間が、学年×10+10分より少ない児童が多い。 ●本を読んでいると回答した児童の割合が低い。	□自学に関する指導を丁寧に行い、自学に意欲的に取り組むことができようにする。 □家庭学習に対して、保護者の協力が得られるように、学年だよりや学級だより等の内容を工夫する。 □図書館での学習の機会を増やしながら、本に接する機会を増やし、家庭学習においても読書の時間が増えるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○5年生は、自分が住んでいる地域が好きであると回答した割合が高い。 ●地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答した児童の割合が、全国より低い。	□低学年の頃から、地域や応援隊の方々に関わる学習を積極的に取り入れ、関心を高めていく。 □総合的な学習の時間では、「大社 だいすき!」の学校テーマのもと、地域や地域の人との交流の場を意識的に取り入れ、学習の終わりに自分たちができることを考えるようにする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【国語】○知識及び技能を問う問題の正答率は比較的高い。 ○全体的に、無回答率は低い。 ●資料を活用して自分の考えを表現することに課題がある。 ●目的に応じて必要な情報を見つけることに課題がある。
【算数】○全体的に、無回答率は低く、選択式問題の正答率が高い。 ○数を四捨五入して概数で表す問題の正答率が高い。 ○百分率で表された割合と比較量から基準量を求める問題の正答率が高い。 ○帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取る問題の正答率が高い。 ●体積の意味についての理解に課題がある。 ●分数において、意味や数直線上での表し方や大小の理解に課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読みと聞き取りの問題は比較的高い。 ●我が国の言語文化に関する思考が弱い。 ●漢字の書き取りに課題がある。 ●ローマ字の問題に課題がある。 ●主語・述語の関係理解が不十分である。 ●条件に適した文章の記述に課題がある。	□既習事項の定着を図り、学習の系統性を考えさせる。 □その時だけでなく、繰り返し取り組む。 □ローマ字は繰り返し学習する。タブレットのタイピングソフトを利用する。 □条件を設定した作文の練習をする。
	5年	○昨年度より標準成績がわずかに上昇している。 ○話す聞くの問題について、放送を聞いて概要を理解することはできる。 ●解答の選択肢文の理解に課題がある。 ●修飾語の理解が課題がある。 ●問題文の読み取りや条件どおり文章を書くことに課題がある。	□文章を読むことの習慣化を図る。(読書量の確保) □学習の振り返りを書く活動を増やすことで、文章を書くことの習慣化を図る。 □条件付加や、字数指定した文章の練習をする。 □「初読の文を読む」ということに慣れていない。初読の文を授業や家庭学習で繰り返し提示することで、習慣化を図る。
	6年	○「情報の扱い方に関する事項」は、県の平均を上回っている。 ○全国や県の平均より無回答の割合が低い。 ●全国の平均正答率をやや下回る。 ●数ページに跨って文章を捉えたり、数か所の文や図を読み取ったりする作業を要する問題の正答率が低い。	□短い時間で文章の内容を正しく読み取る活動を積み重ねる。 →新聞社が出している「新聞記事のワークシート」を朝の活動の時間に積み重ねる。 □「条件付き作文」を書く機会を設ける。
算数	4年	○算数は全体的に平均を超えている。 ○測定(長さ・重さ)の領域が特にできている。 ○3年生までの内容は概ねできている。 ●繰り下がりの引き算に課題がある。 ●かけ算の筆算(2桁×2桁)に課題がある。	□既習事項の定着を図り、学習の系統性を考えさせる。 □答えだけではなく、自分の考えやその過程をグラフや式を用いて発表できるようにする。 □黒板やモニターを使って説明する機会をつくる。
	5年	○昨年度より標準成績がわずかに上昇している。 ○10倍、100倍…したときの数の仕組みは理解できている。 ○概数の範囲が何以上何未満になるか判断できる。 ●変化と関係の領域に課題がある。2つの数量関係の理解に課題がある。 ●問題文に合う自分の考えを書くことに課題がある。	□数直線や線分図など、図表を用いて数や数量関係の理解の深化を図る。 □自分の考えを説明する機会を増やす。 □スキルタイム(朝自習)で、問題文の読み方や解答の書き方の反復練習により、題意をとらえられるようにする。
	6年	○「変化と関係」については、県の平均を上回る。 ●全国の平均正答率を下回る。 ●問題中の「解答を出すために必要な情報(数)」と「そうでない情報」を正しく取捨選択する能力に課題がある。	□問題の内容を絵(慣れてきたら図)で描き表す活動の習慣化を図る。 ※教科書の問題であれば、イラストを隠した状態で文章だけ提示し、絵を描いた後に教科書の絵を提示する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○勉強するときは、進んで集中して勉強している児童が多い。 ○学習した内容を次の学習にいかそうとする意欲はある。 ○自己肯定感は全体的に高い。 ●自分の考えを言葉にすることや、考えることがやや苦手である。 ●テスト勉強をしている児童が少ない。	□ペアやグループでの対話の時間を増やす。 □だんだんタイム(対人関係スキル)の充実を図る。 □全校一斉スキルタイム(朝自習)の時間に、四則計算に取り組むことで、基礎基本の定着を図る。 □読書の推進・辞書の活用・プリント学習などにより語彙を増やして、読解力を高める取組を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとやってきている。 ○きちんと食事をとっている。 ○勉強に本や辞書を利用している児童は多い。 ●読書をしている人や時間が少ない。 ●学習の様子を家庭で話すことが少ない児童が多い。	□学校で借りた本を家に持ち帰って読む時間をつくる。 □家庭学習の取組や時間について、全教職員が相談・共有することで、子どもたちの実態に合う家庭学習を行えるようにする。 □タブレット型端末を使用して、主体的に取り組む課題を配信する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●メディアの時間が長い。 ●自立した生活を送れていない。(朝、自分で起きるなど) ●地域の行事に参加している児童が少ない。	□コミセン事業や地域行事への参加を促す。また、普段参加している事業や行事に地域が関わっていることを伝え関心をもたせる。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荘原小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生【国語科】○全体では、市平均を上回り、全国平均と同程度である。
 ○領域別「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、市平均、全国平均とも大きく上回っている。
 ●領域別「我が国の言語文化に関する領域」「書くこと」については、市平均と同程度で、全国平均は大きく下回っている。
 ○観点別「知識・技能」については、市平均を大きく上回り、全国平均を上回っている。
 ●観点別「思考・判断・表現」では、市平均と同程度で、全国平均は下回っている。
 【算数科】○領域別「図形」については、市平均をやや上回り、全国平均を大きく上回っている。
 ○領域別「測定」では、市平均をやや上回り、全国平均と同程度である。
 5年生【国語科】○全体では、市平均をやや上回り、全国平均と同程度である
 ○領域別「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」については、市平均、全国平均ともに大きく上回っている。
 ○領域別「情報の扱い方に関する事項」、観点別「思考・判断・表現」では、市平均を上回り、全国平均と同程度である。
 ●領域別「書くこと」については、市平均は上回っているものの、全国平均は下回っている。
 【算数科】○領域別「図形」では、市平均、全国平均とも上回っている。
 ○領域別「データの活用」と観点別「思考・判断・表現」においては、市平均は上回り、全国平均と同程度である。
 ●領域別「変化と関係」では、市平均と同程度であるが、全国平均を大きく下回っている。
 6年生【国語科】○全体では、県平均を大きく上回り、全国平均と同程度である。
 ○学習指導要領の内容「知・技(1)言葉の特徴や使い方に関する事項(2)情報の扱い方に関する事項」では、県平均を大きく上回り、全国平均も上回っている。
 ○評価の観点「知識・技能」において、県平均を大きく上回り、全国平均も上回っている。
 ●学習指導要領の内容「思考・判断・表現 A 話すこと・聞くこと」では、県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っている。
 【算数科】○全体では、県平均を上回り、全国平均と同程度である。
 ○領域「数と計算」「図形」「測定」については、県平均を大きく上回り、全国平均と同程度もしくは上回っている。
 ●領域「変化と関係」においては、県平均、全国平均ともに大きく下回っている。
 ○評価の観点「知識・技能」では県平均を大きく上回り全国平均と同程度である。
 ●評価の観点「思考・判断・表現」では、県平均、全国平均ともに大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み・書きが定着しており、特に漢字を書くことは全国平均を大きく上回っている。 ○物語の読み取りについては、全国平均と同程度から上回っている。 ●ローマ字の読みや漢字のへん・つくりに関すること、文章を書くことについては、全国平均を大きく下回っている。	□ローマ字に関する1日1問を実施し、定着を図る。また、新出漢字を学習する際に、へんやつくり等にも触れる。 □朝の活動や家庭学習時に、条件作文を取り入れ、段落分けや接続詞への理解を深めたり、語彙を増やしたりする。
	5年	○漢字の読み、書きについては、正答率が高い。 ○文学的な文章や説明的な文章の読み取りの平均値は高い。 ●中心となる語を見つけて、要約する問題について、必要な語(言葉)を適切に選んで抜き出すことが難しい児童が多い。 ●文章を書く際、段落の構成や意図を考えながら書くことができない児童が多い。	□キーワード(大事な言葉)を見つけ、文章に書いたり、話したりする活動を授業に取り入れる。見方(着眼点)を明確にした授業作りを行う。 □国語や社会の学習の中で、書く時間を設け、内容の指導に合わせて、書き方等の指導も行う。
	6年	○無回答率が低い。 ○自分の考えをもち、記述することができる児童が多い。 ●情報を精査し、論立てることが難しい児童が多い。	□記述のモデルを示し、書き方や論の立て方を身に付けられるようにする。 □ペアやグループでディベートする機会を設定する。
算数	4年	○図形に関する基礎的な問題は、全国平均を大きく上回っている。 ●問題から図形や場面をイメージする力や、自分の言葉で説明する力が弱い。	□図をかいたり具体物を取り入れた算数的活動を行ったりすることで、問題を読んだときイメージ化できるようにする。 □図や文章で自分の考えを説明する機会を設定する。
	5年	○基本的な四則計算において身に付けている児童が多い。 ●問題の場面のイメージ化ができない児童が多い。 ●図や表から必要な情報を見つけたり、条件を満たして説明したりすることが苦手な児童が多い。	□日々授業の中で、学習問題の場面をイメージしやすいものにし、解法の見通しや答えの予想をしながら取り組むようにする。合わせて、抽象的な内容を図に表すことで、イメージを具体化できるようにする。 □割合の学習等で表を読み取って説明する活動を授業の中に取り入れる。(上記のイメージ化とつながりを持って)
	6年	○無回答率が低い。 ○公式等の知識は身についている児童が多い。 ●各分野の本質が理解できていない児童が多い。	□体積等の「本質」を考え、経験する場面を増やす(知的操作のみを行わない)。 □根拠をもって話し合う場面を設定する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語、算数共に、最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が高い。 ●分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていると感じている児童の割合が少ない。 ●授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じている児童が少ない。	□分からないことは、先生や友達に質問したり、辞書や学習図書で調べたりする。 □ペアやグループ活動を適時取り入れ、児童相互での問題解決を図る。 □学んだことを実生活等で生かせる場を設定する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習にきちんと取り組もうとしている児童の割合が高い。 ●読書をする時間が短い。	□予習復習を家庭学習に取り入れる。 □家庭学習に読書の時間を設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○睡眠や食事のような生活リズムに気を付けて生活している子どもが多い。 ●SNSや動画視聴の時間が長い児童の割合が高い。 ●地域に積極的に関わろうとしている児童に二極化が見られる。	□地域の良さ等を知り、体験する活動を実施する(見学や体験等)。 □メディアコントロールについて家庭と連携しながら指導をする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立西野小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○国語において、漢字を書いたり読んだりする問題やローマ字、主語・述語、ことわざや慣用句に関する問題では、正答率が全国平均を大きく上回っている。
○算数において、小数や分数などの計算、図形の作図、面積の求め方などを問う問題では、正答率が全国平均を大きく上回っている。
●国語において、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題では、正答率が全国平均を大きく下回っている。
●算数において、答えを求めた理由を説明する問題では、正答率が全国平均を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書き、ローマ字、主語・述語の問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●理由を明確にして書くなど文章を書く問題では、全国平均を大きく下回っている。また、無回答率が高い。 ●叙述から段落の内容を捉える問題では、全国平均を大きく下回っている。	□段落、文章の書き始めのルールが定着し、文章を書くことへの抵抗を減らすよう、作文やノート指導で繰り返し指導する。 □「問い」「疑問」「つなが言葉の役割」「疑問文の文末表現」など文章を読み取るための基本となる語句やその意味が理解できるよう丁寧に指導する。
	5年	○内容を聞き取る問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○漢字、ことわざなどでは、全国平均を大きく上回っている。 ●複数の資料から内容を読み取る問題では、全国平均を大きく下回っている。 ●条件の中で自分の考えを書く問題では、全国平均を大きく下回っている。無回答率も高い。	□文章を読み取る力をつけるために、少し長い文章や難しい文章を最後まで粘り強く読む習慣をつける。また、資料の情報を整理することができるように指導する。読書時間を多くとることができるような取り組みを行う。 □文章を書く力を高めるために、短い言葉でまとめたり、理由や根拠をもとにして自分の考えを書いたりする経験を重ねるようにする。
	6年	○漢字を書く問題や、中心が明確になるような話の構成を考える問題では、全国平均をやや上回っている。 ●文章の考えに合う事例を選ぶ問題では、全国平均を大きく下回っている。 ●課題の長い文章や問題文、資料を読み取る力が必要な問題では、全国平均を大きく下回っている。	□説明的文章を読む際に、「何を伝えたいのか」主旨を考えながら読む学習活動や、個人で要約、まとめをして伝え合う学習活動を設定する。 □初見の文章を読んで意見を書く活動や、視点に沿って自分が書いた文章を推敲したり、友達と文章を読み合ったりする活動を取り入れる。
算数	4年	○整数や分数のたし算やひき算、小数の仕組みなど基本的な内容の問題については全国平均を大きく上回っている。 ●円の半径と直径の長さの関係を使って答えの求め方を説明する問題では、全国平均を大きく下回っている。 ●身近なものの重さの単位についての問題や、時間についての問題では全国平均を大きく下回っている。	□重さや時間の単位の量感覚を養うために、日常生活に関連付けて学習する。 □答えを求めるだけではなく、答えの求め方を書いて説明したり、話して説明したりする機会を増やす。
	5年	○小数の問題では、全国平均を大きく上回っている。 ○面積や作図の問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●2つの数量の関係を考える問題、概数や大きい数の問題では全国平均を大きく下回っている。 ●表からデータを読み取り、説明する問題では全国平均を大きく下回っている。	□概数で使われる表現や用語の学習、大きな数の学習、2つの数量の関係を考える学習を繰り返し取り入れる。その際に、数直線や位取り表、テープ図など視覚に訴える支援を行い、概数や大きな数、数量関係のイメージを明確にできるようにする。 □表やグラフなどの資料から読み取った数値を、根拠を明確にして文章で表現する活動を取り入れる。
	6年	○体積の計算、小数の計算、概数での表し方などの基本的な内容については全国平均を大きく上回っている。 ●資料から合うものを見つけ、根拠を説明する問題、二次元表を読み取る問題は、全国平均を大きく下回っている。 ●割合や単位量当たりの問題では、全国平均を大きく下回っている。	□教科書の応用問題や復習問題に取り組む時間を確保する。 □自分の考えを根拠に基づいて説明する経験を全学年、全教科において積み上げていく。 □最終問題に向けて無回答率が増えるため、多くの問題に取り組む経験や、時間配分を意識して解き進める経験を低学年から積み上げる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○どの学年でも「学習にパソコンを利用している」、「インターネットを使って情報を収集できる」と回答した児童が全国平均を大きく上回っている。 ○5・6年生では、「学校のきまりを守る」「学校に行くのが楽しい」と回答している児童が全国平均を大きく上回っている。 ●4年生で「勉強に図書館を利用する」と回答している児童が全国平均を大きく下回っている。 ●6年生では、「考えがうまく伝わるよう資料や文章や話の組み立てを工夫して発表している」と回答した児童が全国平均を大きく下回っている。	□図書館を活用した授業を行い、読む力をつけるとともに、自分の考えを伝えるための資料として工夫して表現する力がつくように指導する。 □辞書を手元に置き、取り出せるようにして、疑問を解決しようとする意欲を引き出すとともに、学習の中で身の回りの出来事や社会現象にふれる機会をもち、様々なもの・ことに関心をもつ糸口をつくる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○5年生では、「計画を立てて勉強している」「言われなくても自分で取り組んでいる」と回答した児童が全国平均を大きく上回っている。 ●4・5年生では、「新聞の記事を読んでいる」「家では勉強する場所を決めている」と回答した児童が全国平均を大きく下回っている。	□スタディカードに取り組んでいる学年が多いので、継続するとともに、更に取組を充実させ、自主的に計画的に家庭学習に取り組むことができるようにする。 □新聞ワークなど、新聞や本を使った家庭学習や自主学習を意図的に取り入れ、新聞や本の楽しさやよさを味わうことができるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○5・6年生では、「朝は自分で起きている」「朝食を毎日食べている」と回答した児童が全国平均を大きく上回っている。 ○6年生では、「学校の勉強について家族に話す」「地域や社会をよくするために何かしたい」と回答した児童が全国平均を大きく上回っている。 ●4・5年生では「家の手伝いをする」「睡眠不足にならないようにしている」と回答した児童が全国平均を大きく下回っている。	□総合的な学習や社会科・生活科等で地域を誇りに思う気持ちを高めたり、地域の方と関わることのよさを味わったりし、地域のよさを感じることができるようにする。 □望ましい生活習慣や睡眠の大切さに目を向けるために、チャレンジカードの取組の中で、前回からの課題をみつけ、印をつけて意識的に生活するよう促すとともに、家庭への協力を仰ぐ。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立中部小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

基礎的な知識・技能や学習に向かう姿勢は身に付いている一方、読み取った情報を整理し、根拠を明確にして自分の考えを表現する力や、最後まで粘り強く問題に取り組む力に課題が見られる。

- 学習に集中して取り組む姿勢が身に付いており、基礎的な学習内容では全国平均を上回る項目が見られる。
- 文章の読み取りや漢字の読み、計算、小数・角の大きさなど、基礎的な知識・技能が身に付いている。
- 自分の考えを筋道立てて文章にしたり、数や言葉を用いて考えを説明したりする力が身に付いている。
- 文章を書くことや、条件に合わせて自分の考えを表現することに課題が見られる。
- 情報と情報の関係を捉えたり、文章の中心となる語を見つけて要約したりするなど、「読み取ったことを整理して表現する力」に課題がある。
- 算数では、割合や基準量・比較量の関係、面積・体積・垂直など、用語や定義を正しく理解して活用する力に課題が見られる。
- 記述式問題の正答率が低く、考え方や根拠を文章や数・言葉で説明することに課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○学習に集中して取り組んでいる児童が全国平均を上回った。 ●言葉の学習、文章や漢字を書くことが全国平均を下回った。	□ノートやプリントを書くこと、テスト等を通して、正しい書き方を身に付けさせる。 □音読や書いたり話したりする活動を多く取り入れ、アウトプットする経験を増やすことで「正しく読む、書く」「分かりやすく話す」力をつける。 □話し合いの時間を意図的に設け、自分の意見を筋道を立てて述べる経験を積ませる。
	5年	○文章の内容の読み取りや漢字の読みが全国平均を上回る部分もある。 ●「条件に合わせて文章を書くこと」や「中心となる語を見つけて要約して表現する」が全国平均を大きく下回った。 ●解答時間時間が足りず、後半の問題に無回答が多い。	□単元テストの記述問題で条件の見方を解説したりA評価B評価など基準を示したりして、ポイントをつかませる。 □授業のまとめやふりかえりを書く際に、文章の最初と最後のみ示して中心の部分を考えたり、キーワードを示して文章を考えたりと、条件をつけて記述する経験を積ませる。
	6年	○筋道の通った文章となるように構成や展開を考えて書くことが全国の正答率を上回る。 ○自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫することが市の正答率と同程度。 ●考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報の関連を読み取ることの全国の正答率を大きく下回る。	□説明的な文章の学習において、筆者の考えとそれを支える理由や事例を正確に読み取るために、文章を図式化して全体構造をとらえさせる。 □文章とそれに関連する写真や図を丸で囲んだり線で結んだりして、情報と情報の関連を視覚化する。
算数	4年	○かけ算では、正答率が全国平均をやや上回った。 ●問題の後半にかけて無回答が増えてきている。 ●記述問題の正答率が全国平均をかなり下回っている。	□答えだけで満足せず、そこに至るまでの過程を説明できる力を身につけさせるために、日常的に説明したり思考を言語化したりする場面や活動を多く取り入れる。 □考えをノートに書く活動を多く取り入れる。型やモデルを示して、書くことの苦手な児童にも取り組みやすくする。
	5年	○小数、角の大きさでは正答率が全国平均をやや上回った。 ●分数の大小比較、概数の範囲、身近なものの面積の推測の正答率が全国平均を大きく下回った。 ●面積、体積、垂直、など定義の理解ができていないと解けない問題の正答率に課題が見られる。	□長さや大きさ、量に関する体験を通じて、量感覚を養わせる。実際にやってみる活動を見当をつけてから体験することで概念形成につなげる。 □既習の定義や算数の学習用語を日常生活や他の領域の学習で意図的に活用し、定義や用語の意味の理解を深めさせる。
	6年	○調べたい数量の求め方を、示された条件をもとに数や言葉を用いて記述することが県の平均正答率を大きく上回る。 ○誤りのある項目を見つけ、その根拠を数と言葉を用いて記述することが県の平均正答率を大きく上回る。 ●基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえることが全国の平均正答率を大きく下回る。	□問題の数量関係を表・図・テープ図・関係図などにまとめる機会を増やし、可視化してから立式する習慣をつけさせる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「友達から認められていると思う」「自分のことが好き」など肯定感に関わる項目は全国平均を大きく上回った。 ●「自分の力をできる限り伸ばしたい」や「将来の夢や目標を持っている」は全国平均を大きく下回った。 ○国語・外国語の勉強が好きである児童が、全国平均と同程度。 ●分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で調べ方を考え工夫することが全国平均値を大きく下回る。	□友達から認められる機会や自己有用感を高められる機会をこれまで同様、意図的・継続的に設ける。 □自分に合った覚え方や解決の方法を選択し、学習の自己調整ができるよう、個別最適な学びを取り入れる。 □問題の答えだけでなく、どうして分かったのか、どうやったら分かったのかを全体で共有する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	【6年】 ○学校の勉強について親と話している児童が全国の平均値を大きく上回っている。 ●学校の授業以外で学習している時間が、全国の平均値を大きく下回っている。	□家庭学習について、児童それぞれが自分の目標をもち、計画を立てて取り組み、振り返りができるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	【6年】 ○将来積極的に英語を使う生活をしったり職業についたりしたいと考えている児童が全国平均値と同程度。 ●地域や社会をよくするために何かしてみたいと考えている児童が全国平均値を下回っている。	□各学年で、地域に出かけたり地域の方をゲストティーチャーにお招きして行う学習に継続的に取り組む。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出東小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全国・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって、下回るもの、同程度のもの、上回るものがある。4年生は、国語が市平均正答率を下回っており、全国平均正答率を大きく下回っていたが、算数については全国・市平均正答率と同程度であった。5年生は、国語・算数ともに市平均正答率と同程度で、国語では全国平均正答率と同程度、算数では全国平均正答率を下回っていた。昨年度の結果に比べ、国語・算数ともに改善の成果が見られた。6年生は、国語・算数ともに全国・市平均正答率を大きく上回っていた。

【国語】○叙述を基に、人物の気持ちや必要な情報を読み取ること。

●文章の中心となる語句を捉えて要約すること。

【算数】○小数の十進法の仕組みを理解したり、図形の構成を理解し、面積や体積を計算で求めたりすること。

●グラフや表から、変化の様子や条件に合う数を正しく読み取ること。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を正しく読み、主語述語の関係を捉えること。 ○物語文で、登場人物の気持ちを叙述に基づいて読み取ること。 ●意見と理由を整理したり、構成を考えて文章を書いたりすること、文章の中心を捉えて要約すること。 ●ローマ字を読むこと。	□根拠を明らかにして書く力の育成。書く時の型を示し、日常的に繰り返し書く活動を行う。 □タブレット等を活用し、日常的にローマ字に慣れ親しむ機会を設ける。
	5年	○第4学年に配当されている漢字を正しく読むこと。 ○叙述を基に段落相互の関係を捉えること。 ●修飾語について理解すること。 ●中心となる語句を見つけて要約すること。	□文章をよく読み、語句と語句の関係を読み取る活動を取り入れる。 □書く活動に関して、条件を設定して書くことに取り組む。
	6年	○目的に応じて、必要な情報を見つけないこと。 ○文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめること。 ●既習の漢字を文の中で正しく使うこと。	□新出漢字を学習する際に、間違えて覚えなないように、丁寧に指導する。 □授業の始めの時間などを活用して、5問程度のミニテストを行い、漢字の定着を図る。
算数	4年	○3桁・4桁の繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法や小数・分数の計算をすること。 ○時刻と時間の違いを正しく捉えること。 ●分数の基礎的な仕組みを理解すること。 ●身近にあるものの重さの単位について理解すること。	□式を言葉や図に表す活動をくり返し行い、意味を伴った理解を促す。 □分数の概念を理解できるよう、具体物の操作や、多様な図、数直線とつなげる活動を取り入れる。
	5年	○小数の十進法の仕組みを理解すること。 ○垂直な直線の判別や複合図形の面積の求め方など、図形を理解すること。 ●概数の表現方法や対応する数の範囲を理解すること。 ●複数の折れ線グラフから変化の様子を読み取ること。	□数直線を活用し、範囲や境界の値を視覚化することで理解を促す。また、日常生活の買い物の見積もりなど、目的意識を持たせ、どの位で処理すべきかを考える活動を取り入れる。 □「2つのグラフの変化の仕方の違い」「2つのグラフのデータの差が広がっているのか縮まっているのか」など、対比して捉える活動を行う。
	6年	○十進法の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくること。 ○立方体や直方体の構成を理解し、計算で体積などを求めること。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。 ●基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選択すること。	□算数だけでなく、他教科でも2つの条件を組み合わせた二次元表を作成・分析する活動を取り入れる。 □言葉や公式の暗記に頼らず、関係図やテープ図、線分図に表して数量関係を捉える活動を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分で学び方を考えて工夫する」「自らの考えを深めたり他者の意見に気づいたりするための話し合いをする」という項目で、全国より高い割合を示しており、探求的で自立的な学習意欲が高い。 ○「ICTを活用して情報を整理・表現する」項目において高い自己効力感を示しており、情報活用に対する関心や意欲が高い。	□児童が興味を持つ課題にあわせて学校図書館の利用やICT活用を組み合わせた探求型読書を取り入れる。(現在の校内研究体制の継続)
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●平日の家庭学習の時間及び、休日の学習時間が県・全国の平均から大きく下回っている。 ●普段、読書時間が短く、新聞を読む割合が低い傾向が見られ、活字に親しむ機会が少ない。	□高学年を中心に、1週間の家庭学習計画を児童自身に立てさせ、振り返るワークシートを活用する。 □スマホや動画視聴のルールづくりについて保護者と共有し、家庭での学習時間・睡眠時間の確保を呼びかける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「困っている人を進んで助ける」「人の役に立ちたい」という項目で高い割合を示しており、肯定的な自己他者に認識があり、良好な人間関係と安心感がある。 ●困りごとに対する相談意識が低い。	□困っているときは大人に相談したり頼ったりしてよいというメッセージを繰り返し伝え、心のSOSを出しやすい環境作りをする。